

令和6年度

# 事業報告書

## 彦根市社協の基本理念

### おたがいさんの関係を築き

### 「共に暮らせるまち ひこね」を目指します

暮らしや福祉の課題を他人のこととせず、互いに自分のこととして考え、誰もが支え、支えられる“おたがいさん”の関係を築くことができ、様々な人たちが安心して共に暮らし続けることができるまち「ひこね」を目指します。

## 4つの行動ビジョン

本会は、基本理念を実現するため下記の4つの行動ビジョンに取り組みます。

### ①多様なつながりのなかで、層の厚い支援に取り組みます。

住民や関係機関、事業所等との良好かつ発展的なネットワークの中で、それぞれの持つ強みを活かした支援に取り組んでいきます。

### ②小さな声にも耳を傾け、新たな課題に取り組みます。

かけがえのない一人ひとりの声に耳を傾け、新たなニーズの把握に努めながら、思いに寄り添った支援に取り組んでいきます。

### ③笑顔で働き続けられる職場づくりに取り組みます。

職員一人ひとりが組織に誇りを持ち、より良い事業を推進していくため、良好な職場環境づくりに取り組んでいきます。

### ④持続可能で責任ある組織経営に取り組みます。

「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、安定した組織基盤を構築・維持しながら、責任ある経営を推進していきます。

## 令和6年度 重点事項

### 1 全所属共通ミッション

- 1) 互いに相手の立場や状況を認め、思いやりのある関係を保っていく。ハラスメントのない職場、不得意な分野も自ら学び、成長しようとする職場を目指す。
- 2) 係や立場は違っても、課内の業務は可能な限り共有・協力し合って、事業の継続を目指していく。

### 2 部門別ミッション

(地域支援部門)

“柔軟性”と“創造性”をもって

- ①地域や活動者と共に多様なつながりを創る
- ②本人（支援を必要とする人）の自分らしさと自立（自律）をめざしたサポートをおこなう

(相談支援課)

事業の中で、培われた関係機関との連携を生かし、一つ一つの相談を広い観点で捉え相談者に寄り添い、解決に向けて職員が協力できる

(相談支援課／地域包括支援センター)

聞く力とつながりを大切にしたい、信頼される包括をめざす

(在宅介護課)

住み慣れた地域でその人らしく安心して生活できるように支援します

(総務課)

ヒト・モノ・カネ・情報を通じて、組織の維持・向上に貢献する

## 【目 次】

1. 総 括	1 頁
2. 事業報告	3 頁
○地域支援課事業	3 頁
1) 地域福祉活動計画推進事業	3 頁
(1) 地域福祉推進委員会の開催	3 頁
(2) 「地域福祉推進計画・第2次計画」に基づく実践取組の推進	3 頁
(3) 各学区(地区)「住民福祉活動計画・第2次計画」に基づく実践取組の推進	6 項
2) みんなの地域づくり推進事業	8 頁
(1) アウトリーチ等を通じた継続的支援事業	9 頁
(2) 参加支援事業	10 頁
(3) 地域づくり事業	11 頁
3) 災害に強い地域づくり推進事業	21 頁
(1) 「災害ボランティアセンター事業」(防災訓練・啓発事業)の実施	21 頁
(2) 学区や自治会での出前講座や防災訓練等における啓発	22 項
(3) 災害時を想定した必要備品の整備	23 頁
(4) 令和6年能登半島地震の発生に伴う対応	23 頁
(5) 体制や連携の強化に向けた「強化プラン(仮)」の策定	24 頁
4) 子ども・若者支援事業	24 頁
(1) 地域における多様な居場所の立ち上げおよび運営支援	24 項
(2) はぴとも基金や共同募金地域助成金等の活用による子どもの幸せ・子育て世帯の幸せを応援する事業の実施	25 頁
5) 見守り合い活動推進事業	26 頁
6) 学区(地区)社協活動推進事業	26 頁
(1) 定例学区(地区)社協会長会の開催	26 頁
(2) 学区(地区)社協活動の推進に向けた助成の実施	26 頁
7) 彦根市社会福祉大会開催事業	27 頁
8) 地域福祉推進事業	28 頁
9) 地域福祉事業にかかる財源の確保および活用	29 頁
10) 北老人福祉センター運営事業	32 頁
○相談支援課事業	33 項
1) 総合相談体制整備事業	33 頁
(1) 相談者等に対する支援の実施	33 頁
(2) 見守りあんしんサポート事業(死後事務)の実施に向けた準備	34 頁
2) 地域福祉権利擁護事業	34 頁
(1) 地域福祉権利擁護事業の実施	34 項
(2) 法人後見の受任	35 頁
3) 生活困窮者支援事業	36 頁
(1) 生活福祉資金貸付事業の実施	36 頁
(2) 生活つなぎ資金貸付事業の実施	36 頁

(3) 就職面接にかかる各種支援事業の実施	36 頁
(4) 生活困窮者への食料等の支援の実施	37 頁
4) 権利擁護サポートセンター運営事業	37 頁
(1) 権利擁護に関する専門相談に関すること	37 頁
(2) 虐待等の権利侵害への対応および権利擁護に関する専門的支援に関すること	38 頁
(3) 成年後見制度の利用に関する相談等の専門的支援に関すること	38 頁
(4) 成年後見制度、高齢者および障害者の権利擁護に関する普及啓発および研修に関すること	39 頁
(5) 権利擁護システムの構築および活動に関すること	40 頁
(6) 地域の権利擁護支援の担い手養成および活動に関すること	40 頁
5) 彦根市地域包括支援センター運営事業	40 頁
(1) 彦根市地域包括支援センター運営事業（ハピネス・ひらた・いなえ）	40 頁
(2) 彦根市地域包括支援センターひらたの受託終了に伴う処理	42 頁
<b>○在宅介護事業</b>	42 頁
1) 介護保険・障害福祉サービス事業	42 頁
(1) 居宅介護支援（ケアマネジメント）事業	43 頁
(2) 訪問介護（ホームヘルプサービス）事業	44 頁
(3) 通所介護（デイサービス）事業	45 頁
<b>○総務課事業</b>	48 頁
1) 法人運営体制の充実	48 頁
(1) 理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、第三者委員会議の開催	48 頁
2) 事務局体制の充実	49 頁
(1) 顧問税理士・社労士・弁護士と連携した経営の推進	49 頁
(2) 組織人・職位に応じた人材の育成	50 頁
(3) 内部研修の実施と充実	52 頁
(4) 人事考課制度の検討と試行	52 頁
(5) 職員間連絡・コミュニケーションツールの導入と内部連携強化	52 頁
(6) 大口遺贈にかかる手続きおよび「鏑田基金」の設立	53 頁
(7) 災害時に対する備え	54 頁
3) 一般会費・賛助会費による地域福祉推進財源の確保	54 頁
4) 広報事業	54 頁
(1) 広報紙「社協ひこね」の発行	54 頁
(2) 電子メディアを含む情報発信の強化	55 頁
(3) 広報検討委員会の開催	55 頁
5) 小児難病見舞金	56 頁
6) 衣装貸付事業（収益事業）	56 頁

この事業報告書は、実施した事業の内容をより分かり易くするため、本書に付属する明細についても取り込んで一体のものとして記載しています。

## 1. 総括

令和6年度は、法人の基本理念である「おたがいさんの関係を築き『共に暮らせるまち ひこね』を目指します」の具体化に向け、それぞれの部門ごとの強みを活かした事業に取り組むとともに、地域福祉推進の中核機関である本会が果たすべき役割の再認識と、それらを支える基盤である人財や財源、組織体制の強化に取り組む一年となりました。

地域支援部門においては、“住民互助による助け合い活動”を市全体で推進する目的で、新たに「助け合い活動者ネットワークおたすけ“ひこねっと”」を発足しました。また、地域ニーズや課題に対応するしくみとして、地域と専門職の連携による見守り体制である「ひこね見守りネットワーク台帳」、生きづらさやしんどさのある子どもにフィットした「課題解決型の居場所」といったモデルの構築を行いました。これらは、市から受託した重層的支援体制整備事業の位置づけで実施し、市との協議を重ねながら、本会がもつ地域の多様な活動や人、団体等の情報とネットワーク、地域づくりのノウハウを活かした推進を図りました。このほか、地域福祉推進計画・第2次計画に基づく実践取組、大規模地震を想定した災害ボランティアセンター設置運営訓練、はぴとも基金への寄付を財源とする事業や助成の実施など、これまで進めてきた本会独自の事業についても継続して実施しました。

相談支援部門においては、地域で増えている“身寄りのない高齢者”を対象に死後事務等を行う「見守りあんしんサポート事業」について、令和7年度中の実施に向けた情報収集と検討、実施要綱等の整備を進めました。また、地域包括支援センターひらたについては、人材不足等の理由により、平成29年7月から約7年間にわたる受託業務をやむなく終了し、市との協議を丁寧に進めながら次期受託者への引継ぎを行いました。高齢者に限らず、障害や生きづらさを抱えて地域で暮らす人は増加傾向にあり、こうした方に寄り添う支援は、より一層ニーズを増しています。本会として、さまざまな機関・団体や専門職と連携しながら、これらのニーズに応じた相談支援や権利擁護支援、困窮者支援の各事業を実施しました。

在宅介護部門においては、高齢者に対する適切なサービスおよびマネジメントを提供するため、法令に基づき高齢者虐待防止のための指針を整備し、職員の質の向上を目的とした研修に取り組みました。居宅介護支援事業では、事業所としてより一層ケアマネジメントの質の向上を図るため主任介護支援専門員の育成を行うとともに、通所介護事業では、滋賀大学の授業プログラムへの協力を通じて利用者と大学生の交流を行ったり、隣接する北老人福祉センター主催のハピネス活動紹介展に合わせバザーを開催したりするなど、来所された地域住民と利用者の交流を図ることで、デイサービスセンターとしてのケアだけに留まらない、「人と人のつながり・交流を大切にサービス提供」に取り組みました。訪問介護事業では、特に障害福祉サービスにおいて利用者数が増となり、求められるサービスを提供しました。

総務部門においては、法人の基本理念および全所属・部門別ミッションと職員一人ひとりの頑張りが同じ方向に向かって進めるよう、「人事考課制度における試行」に取り組みました。また、職員が安心して業務に従事できるよう、労働災害の防止や職員の健康の保持・増進等を目的に、さまざまな衛生活動に取り組んだほか、弁護士・社労士・税理士等の専門職と連携し、法人機能の強化を図りつつ多様な問題に対して適切な対応を行いました。

こうした各部門での取組を今後も継続して実施していくために、本会として財源確保を図ることが不可欠な中、故鏑田久勝様から本会へ大口の遺贈を受けたことは大きな励みとなりました。一方で、本会への事業委託や補助の大半を占める彦根市においては大変厳しい財政状況であることから、地域の“いま”と“これから”において重点的に取り組むべき事業、寄付者から共感が得られる事業を整理し、本会として自主財源確保を図るための手法や体制について検討を行いました。具体的には令和7年度からスタートすることになりますが、法人全体で財源確保に取り組んでいくこととします。

## 2. 事業報告

### ○地域支援課事業

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：地域福祉推進事業

#### 1) 地域福祉活動計画推進事業

##### (1) 地域福祉推進委員会の開催

地域福祉推進計画・第2次計画に掲げる活動理念“多様な「つながり」が「暮らし」と「いのち」を守る”を実践していくために、地域福祉推進委員会を開催した。

##### ○地域福祉推進委員会の開催（2回）

第1回	開催日	令和6年6月18日
	開催場所	障害者福祉センター 多目的室
	出席者数	16人（欠席9人）
	内容	1) メンバー紹介および新規加入団体紹介 2) 委員長および副委員長の選任 3) 「住民福祉活動計画」の推進状況について 4) 「地域福祉推進計画」の推進について ～「連携・協働をめざすシート」を用いて～ 5) 「基盤強化計画」の推進状況について
第2回	開催日	令和7年2月14日
	開催場所	福祉センター別館 多目的会議室
	出席者数	15人（欠席10人）
	内容	1) 「基盤強化計画」の中間評価について 2) 「各学区(地区)住民福祉活動計画」の中間評価について 3) 「地域福祉推進計画」の中間評価について 実践取組①～④ごとに「達成度」「影響(インパクト)の度合い」「期待度」にかかる意見交換

##### (2) 「地域福祉推進計画・第2次計画」に基づく実践取組の推進

地域福祉推進計画の実践取組テーマ①～④ごとに「実践取組推進チーム」を編成し、計画に基づく取組および検討を実践した。

また、計画期間の5年間（令和5年度～9年度）を通算期間とする助成制度に基づく助成を通して、各チームにおける取組を推進した。

##### ○リーダー・コーディネーター打ち合わせ（3回）

第1回	開催日	令和6年6月6日
	開催場所	福祉センター本館 ボランティア活動室
	内容	1. はじめに ～計画3年目における推進について～ 2. 前年度の各実践取組における進捗状況について (1) 実践取組推進チームにおける取組状況等について (2) 各団体・機関における取組状況 3. 第1回地域福祉推進委員会について

第2回	開催日	令和6年10月4日
	開催場所	福祉センター本館 ボランティア活動室
	内容	1. 第1回地域福祉推進委員会の結果概要&その後の進捗状況について 2. 各実践取組における進捗状況について (1) 実践取組推進チームにおける取組状況等について (2) 上記以外の取組や今後の方針など 3. 計画推進の中間評価について
第3回	開催日	令和7年1月14日
	開催場所	福祉センター本館 12会議室
	内容	1. 第2回地域福祉推進委員会の内容等について 2. 各実践取組における進捗状況について (1) 実践取組推進チームにおける取組状況等について

○各チーム会議および実践取組

実践取組①/「自分らしさ」の認め合い 一人ひとりの活躍

チーム会議	7回（令和6年5月13日、7月4日、9月5日、10月2日、10月31日、11月24日（ボラフェス開催時）、令和7年1月16日）
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分らしさ」に関わるアンケート結果の分析</li> <li>・高校生への再アンケート実施のため、高校との連携</li> <li>・上記アンケート結果の分析内容についてボランティアフェスティバルでの展示</li> <li>・親子を対象にした『コーチング体験講座』の実施</li> <li>・次年度以降の取組内容について意見集約</li> </ul>
特にチカラを入れたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度に実施したアンケート結果から世代による“あったらいい場所”“いたらいい人”の違いを可視化</li> <li>・自分らしくいられるために、親子や身近な人との信頼関係や良好な関係を築くためのポイントを気軽に体験できる講座を実施</li> <li>・特に学齢期や若者世代の分析結果をメインに展示</li> <li>・様々な世代や団体、機関との協働と連携による推進</li> </ul>
取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 16,190円 令和6年度（助成2年目） 63,404円 計 79,594円／総額500,000円



実践取組②/災害に強い地域づくり 防災力・対応力アップ

チーム会議	3回（令和6年6月18日、12月12日、令和7年2月4日）
取組概要	取組1 新たなコミュニティ事業の創出に向けた協議 <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖泉大学の学生による防災チームと大学近隣の自治会との交流事業を検討</li> </ul>

	<p>→防災チームと肥田町自治会による交流会開催をめざしたが、両者のスケジュールが合わず、実践は令和7年度に持ち越し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討においては、令和5年度に聖泉大学学園祭で若年層への働きかけとして実施した取組（アンケート聴取）を活用</li> </ul>
	<p>取組2 情報の発信と受信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害発生後の生活に密着した情報発信について、コミュニティラジオなどのメディア利用について検討</li> </ul>
	<p>取組3 障害者の避難や課題にかかる検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・湖東地域障害者自立支援協議会の取組についてチーム内で情報共有</li> <li>・支援関係者での検討は進んでいるが、現状では地域と共に取り組むハードルがあることを確認</li> </ul>
特にチカラを入れたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティワーカーの協力を得て、聖泉大学と肥田町自治会との連絡調整を実施</li> </ul>
取組推進助成の活用状況	<p>令和5年度（助成1年目） 16,136円</p> <p>令和6年度（助成2年目） 0円</p> <p>※聖泉大学防災チームと自治会の交流会を予定していたが、令和6年度中には実施しなかったため、助成金は活用なし</p> <p>計 16,136円／総額500,000円</p>

#### 実践取組③／相談しやすい社会 困りごとを放っておかない社会

チーム会議	4回（令和6年6月6日、8月14日、12月25日、令和7年3月17日）
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民互助の助け合いの取り組みについて、現状と課題を考察</li> <li>・ちよこっとサポート城北×城西プラン会議交流会に参加</li> <li>・相談機関交流会について、現場職員の顔の見える関係づくりができる内容にできないか検討（令和7年度に向けて）</li> <li>・わかりやすい相談窓口PR冊子について検討</li> </ul>
特にチカラを入れたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の困り事について分析と整理</li> <li>・住民互助活動のモデル的な立上げに向けての支援</li> </ul>
取組推進助成の活用状況	<p>令和5年度（助成1年目） 0円</p> <p>令和6年度（助成2年目） 0円</p> <p>※課題の整理や情報の収集、具体的な実践内容の検討等を中心に行ったため、助成金は活用なし</p> <p>計 0円／総額 500,000円</p>

#### 実践取組④／インターネット社会における地域福祉の推進、利便性と安心の充実

チーム会議	13回（令和6年4月2日、4月26日、5月10日、6月28日、7月26日、8月23日、9月27日、10月25日、11月19日、12月19日、令和7年1月16日、2月10日、3月11日）
取組概要	取組1「ひこねデジタルサポーター」の育成とインターネット活用が広がる環境づくり

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひこねデジタルサポーター養成講座」に向けた情報収集や先進事例（7月31日「ながはまデジタルサポーター養成講座」）の見学</li> <li>・企業（ソフトバンク株式会社）、学生（滋賀県立大学／株式会社ぴあノバ）と連携し、「ひこねデジタルサポーター養成講座」を開催</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に作成した『LINEを使った回覧板の作り方』動画のDVD貸出やYouTubeでの配信、まちづくり推進課から自治会向けへのPRなど、多様な手法で発信</li> </ul> <p>YouTube配信は、①市内の実践取組紹介編 2,890回 ②実際に作ってみる編 3,760回の閲覧あり</p>						
	<p>取組2「コミュニケーションテクノロジーによる新たな社会参加の実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NTT株式会社の協力により、主にALS患者のコミュニケーション支援でのテクノロジーの活用についてICT勉強会を開催（オンライン実施）</li> <li>・ボランティアフェスティバルにブース出展し、「森のおうち」と協働で視線入力体験を実施（ブース出展にむけて「森のおうち」にて視線入力機器の見学・体験会も実施）</li> </ul> 						
<p>特にチカラを入れたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームメンバーを越えて、福祉事業所や大学生、企業と連携し、一緒に考え一緒に創ることを意識して実施</li> </ul> <p>→「ひこねデジタルサポーター」の活動にあたり、大学生や企業の協力およびまちづくり推進課との連携・協働により、令和7年度は自治会への出前講座を実施する予定</p>						
<p>取組推進助成の活用状況</p>	<table border="0"> <tr> <td>令和5年度（助成1年目）</td> <td>46,264円</td> </tr> <tr> <td>令和6年度（助成2年目）</td> <td>18,614円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>64,878円／総額 500,000円</td> </tr> </table>	令和5年度（助成1年目）	46,264円	令和6年度（助成2年目）	18,614円	計	64,878円／総額 500,000円
令和5年度（助成1年目）	46,264円						
令和6年度（助成2年目）	18,614円						
計	64,878円／総額 500,000円						

(3) 各学区(地区)「住民福祉活動計画・第2次計画」に基づく実践取組の推進

住民主体による推進会議の開催をサポートし、各学区(地区)における計画に基づく検討や取組を推進した。また、計画期間の5年間(令和5年度～9年度)を通算期間とする助成制度に基づく助成を通して、各学区(地区)における取組を推進した。

計画推進にかかる助成金活用学区(地区)数 6学区(地区)

〔助成および取組の概要〕

城西	取組名	西中「きずな食堂」プロジェクト
	実施主体	城西プラン推進会議
	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助け合いができるまちづくりの一環として、地域の大人たちが中学校内での食事提供を実施</li> <li>・この機会を通して、西中生徒が地域の方々に「困った」「助けて」を気兼ねなく言い出せる環境づくりを推進</li> </ul>
	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 75,000円 令和6年度（助成2年目） 70,000円 計 145,000円／総額 300,000円
城北	取組名	① もろてえ～な市 ② 休耕田を活用した家庭菜園での場づくり ③ 防災研修会の開催
	実施主体	城北きらめき推進会議
	実施概要	取組① ・お互いが声を掛け合い、コミュニケーションを取ることでつながれる機会づくりを目的に、家庭で使っていない食器、学用品、日用雑貨、衣類などを通して「おすそわけしたい人」と「それを必要とする人」が交流する“もろてえ～な市”を開催 取組② ・休耕田提供者や家庭菜園希望者、野菜づくり指導者を募集し、世代を超えた交流やつながりの場づくりを推進 取組③ ・防災への意識向上を目的に、自分の身を守る行動を知る学区内防災会の交流会を企画（天候不順で実施できず） ・子どもへの防災意識向上として、学校への出前防災講座を検討
	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 50,785円 令和6年度（助成2年目） 41,772円 計 92,557円／総額 300,000円
鳥居本	取組名	鳥居本学区大遠足会ウォーキング大会 ～防災・健康・魅力発信・子育て すべてやります～
	実施主体	鳥居本学区第二次住民福祉活動計画 「さんあかトリプルAプラン」推進会議
	実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人が出会いふれあいながら、地元企業を訪ねる郷土再発見ウォーキングを実施</li> <li>・実際に歩くことで新たな気づきを得ながら、学区の防災マップの製作</li> <li>・学区内の協力者を増やすことを目的に、ボランティアを募集</li> </ul>

	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 60,000円 令和6年度（助成2年目） 52,547円 計 112,547円／総額 300,000円
佐和山	取組名	第2回さわやまふれあいフェスタ
	実施主体	佐和山学区住民福祉活動計画推進プロジェクト会議
	実施概要	・学区内諸団体によるフェスタを「さわやま子育て広場」と共催で実施 ・フェスタ内で、諸団体活動の啓発、ブース出店、マルシェ出店を実施
	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 30,000円 令和6年度（助成2年目） 30,000円 計 60,000円／総額 300,000円
亀山	取組名	ふるさと亀山を好きと言えるまちづくり
	実施主体	亀山学区第2次住民福祉活動計画推進会議
	実施概要	・郷土愛を高める取組として、地域の自然や文化、伝統を取り入れた“亀山かるた”と“紙芝居”を製作 ・防災意識の向上や研修を通じた体制づくりにつなげることを目的に“防災出前講座”を開催
	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 30,000円 令和6年度（助成2年目） 130,000円 計 160,000円／総額 300,000円
稲枝	取組名	・「ふれあいサロン」「世代間交流」「コミュニティカフェ」「講習会・研修会」等の開催と福祉活動計画のPR推進 ・高齢者や障害のある人など、困っている人の支援体制をつくらう
	実施主体	稲枝地区第2次住民福祉活動計画推進委員会
	実施概要	・各町でふれあいサロンや世代間交流、コミュニティカフェ、健康づくり等を開催し、つながりを深める活動を推進 ・各町自治会に福祉の専門委員会として「福祉委員会」の設置を推進し、研修会や学習会を実施
	取組推進助成の活用状況	令和5年度（助成1年目） 0円 令和6年度（助成2年目） 112,998円 計 112,998円／総額 700,000円

## 2) みんなの地域づくり推進事業

※令和5年度までの「生活支援C○設置事業」「子ども・若者支援事業（うち市委託業務分）」「我が事・丸ごとの地域づくり推進事業（アウトリーチ支援・参加支援・地域づくり事業）」を集約  
→市における「重層的支援体制整備事業」委託業務の一本化と整合

(1) アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

複雑化・複合化した課題を抱えながらも課題解決に必要な支援が届いていない人（長期にわたりひきこもりの状態にある人など）につながり続けることで関係性を構築し、必要な支援を届けることができるよう個別支援を行った。

特に令和6年度より新たに配置したCSW(コミュニティソーシャルワーカー:地域に入り込んで共に課題解決を図ったり、専門機関へ適切につないだりする役割)がアウトリーチ支援担当を兼務し、課題を抱える人や家庭が地域とつながることを意識した支援を行った。

また、自らSOSを発信することが難しい人へのアウトリーチ（訪問）による粘り強い寄り添い支援を行うことで、さらなる困難化の防止や早期発見・対応の体制づくりを図った。

○SOSの発信力が弱い世帯や当事者へのアウトリーチ

関係機関や地域の支援者等と連携し、アウトリーチによる関係の構築と定期的な相談のきっかけづくり、生活状況の改善に向けた支援を行った。

本会の参加支援事業への安定した参加を機に、他の支援機関につながるなどアウトリーチ支援としては終了となったケースもあった。

支援対象者 実人数	44人	新規受付件数	9件
		終結件数	9件

【支援の内訳】

(ア) 支援関係機関や地域住民等の地域の関係者との連携を通じた情報収集	176回
(イ) 事前調整	167回
(ウ) 関係性構築に向けた支援	152回
(エ) 家庭訪問および同行支援	156回

○アウトリーチ支援チーム会議の開催

特に中長期のひきこもり者など複数の機関や専門職が連携し時間をかけて関係構築を図りながら支援へつなげていくことが必要なケースに対し、医療・福祉・保健等の各分野の強みを活かしあうアウトリーチ支援体制を構築していく会議を開催した。

4回開催：令和6年6月20日、9月26日、12月23日、令和7年3月24日

協議内容：アウトリーチ支援チーム体制要項の見直し

各機関で対応しているケースの支援調整や役割分担

事例検討を通じた同様の課題への対応力の向上、社会資源開発

学齢期・若年期のひきこもり支援の在り方について意見交換

本市における今後のアウトリーチ支援体制の確認・資源の共有 ほか

○「福祉と医療の連携によるアウトリーチ支援」の実施結果

(南彦根クリニックにおけるアウトリーチ支援の結果)

支援対象者数 : 375人 (各月の実人数の合計)

新規件数 : 19人

## (2) 参加支援事業

地域で孤立している人や生きづらさを抱える人などが、社会とつながっていくことを目的に、支援対象者それぞれが持つ強みや得意を活かした個別支援を行った。

本会における軽作業の場や企業・事業所の作業、地域の活動やイベント等への参加を通して、個別のニーズに合わせた社会とのつながりづくりに取り組んだ。

支援対象者 実人数	46人	新規受付件数 (お試し実施を含む)	15件
		終結件数	10件

プラン作成件数                      新規    10件                      更新    9件  
個別対応件数(年間)                  延べ830件

### ○「参加の場・機会」へのマッチング

実施内容	年間回数	延べ参加人数
本会の軽作業	95回	323人
本会の在宅作業	13回	13人
企業や事業所の作業(個人含む)	32回	99人
地域の活動(寺や神社の清掃等)	3回	6人
ボランティア(無償)	11回	12人
つながりイベント(本会実施居場所)	4回	21人

### ○個別のニーズに対応した参加の場の構築【新規】

支援対象者が持つ強みや得意を活かして活躍できる場として、地域のイベントへ出店し、ワークショップで作成した創作物を販売・展示した。ワークショップは、参加者同士が教え合う様子を見られ、交流や居場所としての機能も果たした。

また、ものづくりが得意な方に、市内のフリースクールへ出向いて講師役を担ってもらい機会も設けた。

- ・ イベントへの出店    年    2回                      延べ参加人数10人
- ・ 出店に向けたワークショップの開催                      年14回                      延べ参加人数53人



### ○ものづくり体験ワークショップの開催支援

ものづくり作家兼作業療法士へ協力金を助成し、作業体験のワークショップを通して、自己肯定感の向上や新しい自分の気づきを得ることができる居場所の開催支援を行った。

- 協力事業所：Opull(オプル)
- 開催日数   ：9日(1日2回実施)
- 参加者数   ：延べ67人

○「参加の機会・場」の拡充に向けた事業所等への働きかけ

参加支援事業を広く周知することにより、市内の事業所や団体、地域へ協力を働きかけ、「参加の機会・場」を拡充した。

協力事業所や団体（個人や本会実施分を含む）：14か所（うち新規10か所）

(3) 地域づくり事業

①世代や属性を超えて交流できる場や居場所の整備

高齢者、障害者、子育て中の親子、ひきこもり状態にある人や生活困窮者等が、いつでも好きな時に行ける居場所の情報収集を行った。

また、多様なニーズに応じた居場所を充実していくことを目的に、「課題解決型の居場所」のモデル構築を行ったほか、地域活動に関わるヒトづくりや福祉理解の推進を図った。

○多様な居場所の充実

・市内における居場所や参加の場にかかる情報収集

分類	総数	うち休止中	新規立ち上げ
地域サロン(☆)	79箇所	0箇所	0箇所
認知症カフェ	3箇所	0箇所	0箇所
宅老所	7箇所	0箇所	0箇所
子ども食堂	12箇所	2箇所	0箇所
地域食堂	5箇所	0箇所	1箇所
子どもの学べる場	15箇所	0箇所	0箇所
健康づくりの場	19箇所	0箇所	0箇所
若者の居場所	6箇所	1箇所	0箇所
ボランティア参加(☆)	1箇所	0箇所	0箇所
その他	11箇所	0箇所	2箇所

☆定期的（月約1回以上）の開催がある場や機会のみ掲載

・「課題解決型の居場所」づくりのモデル実施【新規】

既存の居場所に行くことが今は難しかったり、地域や学校での生活に何かしら課題を抱えたりしている子どもの生きづらさやしんどさにフィットする居場所として、協力事業所や関係機関とともに協議を重ねてモデルを新たに構築

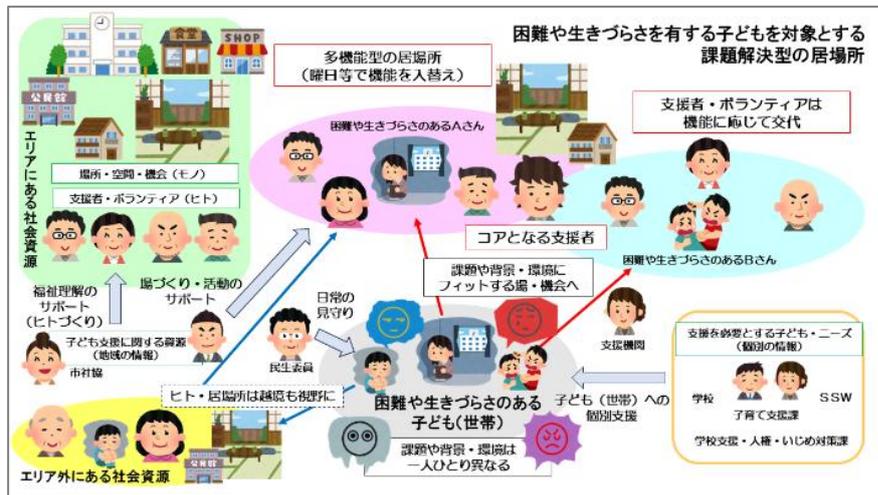
関係者による協議 令和6年7月～開始

開催数：12回

出席者：(株)クラマツ、スクールソーシャルワーカー、小学校、行政（子育て支援課）、民生委員、市社協

モデル試行：令和6年11月～開始

利用児童数：2人（2世帯）の子どもを受け入れ



○地域活動やボランティア活動の担い手である「ヒトづくり」の推進

- ・ボラカフェ事業の実施
 

地域活動やボランティアに関する情報共有や発信を行う場として、フードパントリーやスーパー、福祉施設の一部を借りて開催。活動団体による体験型ワークショップを行うなど、より関心を持ってもらえるよう工夫した。

「ボラカフェ」の開催 合計：8回 参加人数：148人
- ・ボランティア募集情報の収集および発信
 

随時、ボランティア情報を収集し、本会広報誌およびSNSによる発信を行った。

社協ひこね（全戸配布）における活動紹介記事の掲載	2回
ボラカフェ・インスタグラム投稿数	26件
公式ラインアカウント「ボランタス」配信数	23件
- ・「送迎支援ボランティア養成講座・安全運転講習」の開催
 

開催日：令和7年2月24日  
 会場：福祉センター別館多目的会議室、駐車場ほか  
 講師：関西STS連絡会 柿久保 浩次 氏  
 参加者：44人  
 うち新規で送迎支援に取り組み予定 12人
- ・「子ども『安心』サポートボランティア」養成講座の開催【新規】
 

「課題解決型の居場所」に来る子どものありのままを受け止め、丁寧に関わる人財養成を目的に開催

開催日：令和7年3月11日  
 会場：福祉センター本館 12会議室  
 講師：社会福祉士 上村 文子氏  
 参加者：10人  
 サポートボランティア仮登録者：3人



○福祉を身近に理解する場・機会の充実

学校や地域、企業を対象に、福祉教育や福祉の出前講座等を行い、暮らしに身近な福祉の課題だけでなく、障害理解や多様性理解を深めるテーマでの学びの場・機会を提供した。

〔対象別〕

対 象	開催回数	参加人数
小学校	132回	4,856人
中学校	1回	20人
高校・大学	1回	10人
企業	1回	15人
地域	28回	1,001人
その他	1回	50人
計	164回	5,952人

〔テーマ別〕

テーマ	開催回数	参加人数
予防的福祉（地域での見守り合い）	23回	846人
共助の地域づくり（平時や災害時）	19回	771人
つながることの大切さ	21回	762人
違いの認め合い（多様性理解）	7回	335人
よりよい暮らし方、よりよい最期の迎え方	3回	290人
生きづらさの理解	0回	0人
障害理解	101回	3,425人
その他	16回	582人
計	190回	7,011人

※複数テーマで実施することがあるため、「対象別」と「テーマ別」の合計数は一致しない

②地域における個別の活動や人のコーディネート

「人と人」「人と社会資源」をつなぎ、顔の見える関係性や気かけ合う関係性が生まれるよう、地域の課題の掘り起こしや困りごとの解決につながる活動の推進を行った。また、福祉的な活動だけでなく、楽しそう・面白そうといった興味・関心からつながりが生まれる場づくりや取組を推進した。さらに、既存のコミュニティによるつながりや交流が減少している中、地域活動の維持や活性化、再構築に向けたサポートを行った。

○市民のニーズや生活課題、社会資源の状況の把握

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域における困りごとの把握               <ul style="list-style-type: none"> <li>地域生活課題に関する相談 延べ260件                   <ul style="list-style-type: none"> <li>うち地域での困りごと解決に向けたマッチングやコーディネート数【新規】 (地域づくりに取り組んだ件数) 22件</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>〔ケース事例〕               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域と専門職との連携がうまく機能せず、調整を要するもの</li> <li>・ 地域住民が認知症や精神疾患のある人を受容するためのサポート（福祉理解の促進や受容のための体制づくり）を要するもの</li> <li>・ 障害等が疑われるが、本人からのSOSの発信がなく支援につなぐまでに粘り強い関りを要するもの</li> </ul> </li> </ul>	<p style="text-align: right;">など</p>
---	--------------------------------------

・ ボランティアに関するニーズ			
(内容別)		(受付先別)	
内 容	件数	受付先	件数
活動をしたい	42	市 民	28
活動を頼みたい	59	学 校	13
その他	11	施 設	32
合 計	112	企 業	8
		ボランティア	13
		団 体 (自治会等)	16
		行 政	2
		合 計	112

・ 「暮らしのおたすけ情報誌」発行に向け、助け合い・支え合いに関連する地域資源の情報収集を実施	
「暮らしの困りごとサポート／家事支援」	25件
「買い物支援」	17件
「移動外出支援」	37件
「配食サービス」	7件
「移動理美容」	6件
「その他」	11件

○困りごとを早期発見・対応し、放っておかない社会づくり

・ 見守り合い活動の取組自治会数	177自治会
内訳 サロン（居場所）	124件
訪問活動	33件
生活支援	88件
見守り会議	34件
※複数の活動を実施する自治会があるため、合計は合致しない	
・ 地域見守り協力事業所数	30事業所
・ 「ひこね見守りネットワーク台帳」の新規立ち上げに向けたモデル実践【新規】	
“地域と専門職の連携による見守り” “見守り対象者の把握” をねらいに実施	
モデル地区／平田学区	
令和6年度末時点	6人が登録（うち1人は手続き中）
関係者会議（モデル実施に向けた協議の場）の開催	計8回
〔参加団体・機関〕	
平田民生委員児童委員協議会、地域包括ひらた、第2層推進員、市高齢福祉推進課	

○「自助」と「公助」だけでは支えきれない、暮らしの安心の充実

市内で11小学校区をモデル地区に指定し、当該地域における住民互助による生活支援活動の推進と立ち上げに向けたサポートを実施した。

モデル地区における取組の推進 11学区

うち 生活支援活動を實踐中 4学区（鳥居本、稻枝北、城北、龜山）  
 立ち上げに向けて検討中 5学区（金城、佐和山、城西、若葉、稻枝西）  
 立ち上げの検討終了 2学区（旭森、稻枝東）

〔各モデル地区における実践および検討の状況〕

鳥居本	モデル検討	平成28年度～
	取組開始	平成30年度～
	現状および今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織体制が構築され、困りごとメンバー間で共有</li> <li>・口コミにより学区全域へ活動が広がっている状況</li> <li>・利用者対応について、必要に応じて地域包括支援センターやケアマネジャーと連携しながら対応できるよう、関係性の構築をめざして活動中</li> </ul>
稻枝北	モデル検討	平成28年度～
	取組開始	令和元年度～
	現状および今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援活動は、送迎を中心に継続</li> <li>・支援者の高齢化に伴い担い手不足が課題の一つ</li> <li>・利用者も固定化していることから、活動を継続していくために担い手の募集や周知の方法を工夫していく予定</li> </ul>
龜山	モデル検討	令和3年度～
	取組開始	令和5年度～
	現状および今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が周知・認知されてきたことで、草刈りや送迎を中心に依頼が上がり、対応している状況</li> <li>・月1回程度チームミーティングを行い、活動状況の報告、共有と今後の方針について意見交換</li> <li>・ミーティングには市社協や地域包括支援センターの職員も入り、専門職との連携も構築</li> </ul>
城北	モデル検討	令和5年度～
	取組開始	令和6年度～
	現状および今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お試し活動を経て、令和6年10月に本格開始</li> <li>・送迎支援も開始し、依頼も順調に増えている状況</li> <li>・地域包括支援センターやケアマネジャーとの交流、メンバーの新たな加入など、様々な視点で活動を展開中</li> </ul>
金城	モデル検討	令和5年度～
	取組開始	現在検討中
	現状および今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いい街づくり推進委員会」で助け合いのしくみづくりの検討に向けた協議を再開</li> <li>・地域資源マップを作成し、学区内の資源を可視化</li> <li>・具体的な取組の検討に向け、困りごと等の実態把握を目的に、令和7年度に全戸対象のアンケート調査を実施予定</li> </ul>

佐和山	モデル検討	令和5年度～
	取組開始	現在検討中
	現状および今後に向けて	・暮らしの困りごと把握を目的としたアンケートを行うため、アンケート内容の精査や実施対象を絞るところまで進捗 ・アンケートは令和7年度に実施予定
旭 森	モデル検討	令和5年度～
	取組開始	令和6年10月で検討終了
	現状および今後に向けて	・「暮らしのちょっとした困りごと」を考える座談会（全5回）を開催 ・学区および自治会域での助け合い活動の立ち上げについて、視察交流研修や実践事例から学び、話し合いを実施 ・学区全体ではなく自治会域での活動を立ち上げていくとの結論に至り、座談会は終了 ※学区としてのモデル指定については終了
城 西	モデル検討	令和6年度～
	取組開始	現在検討中
	現状および今後に向けて	・城西プラン推進会議の助け合いチームの取組として検討 ・住民アンケートの実施やちょっとサポート城北との情報交換を実施 ・令和7年度以降、具体的な検討を実施予定
若 葉	モデル検討	令和6年度～
	取組開始	令和7年度～
	現状および今後に向けて	・生活支援活動の立ち上げに向けた協議の場として「暮らしのちょっとしたお手伝いを考える座談会（全10回）」を開催 ・地域資源の可視化や住民ニーズ把握のための全戸アンケートを実施 ・“地域ではたらく”をテーマとし、活動名称は「暮らしのサポート若葉」と決定 ・令和7年度当初に学区の活動として立ち上がる予定
稲枝東	モデル検討	令和6年度～
	取組開始	令和6年度末で検討終了
	現状および今後に向けて	・学区での立上げに向けた検討を進めたが、規模感や地域性から学区で進めていくことは現段階では困難との結論 ・まずは自治会域での検討を進めることとなり、金田町および金沢町で新たに活動を立ち上げ ※学区としてのモデル指定については終了
稲枝西	モデル検討	令和6年度～
	取組開始	令和7年度～

	現状および 今後に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学区域での活動立ち上げをめざし、各自治会から推進員候補が選任され、立ち上げミーティングがスタート</li> <li>・活動内容は一旦送迎のみに絞り進めていく方針</li> <li>・活動名称は「たすけ愛はえみ」と決まり、令和7年度中に立ち上がる予定</li> </ul>
--	-----------------	---

・学区別「助け合い・支え合いフォーラム」の開催

城陽	<p>開催日：令和6年5月18日          会場：南地区公民館          基調講演：「なぜ、地域での助け合い・支え合い活動に取り組むのか」          NPO法人元気な仲間 谷 仙一郎 氏          実践報告：稲枝北学区安全・安心まちづくり協議会          参加者数：約60人</p>	
----	---	---

・市域での「助け合い活動者交流会」の開催【新規】

※市域の「助け合い・支え合いフォーラム」に代えて開催

<p>開催日：令和6年11月17日          会場：福祉センター別館多目的会議室          アドバイザー：NPO法人街かどケア滋賀ネット 貫井氏          参加者：18団体 43人</p> <table data-bbox="367 1041 1053 1131"> <tr> <td>内訳</td> <td>すでに活動を実施中</td> <td>11団体</td> </tr> <tr> <td></td> <td>今後活動立ち上げを検討中</td> <td>7団体</td> </tr> </table> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div>	内訳	すでに活動を実施中	11団体		今後活動立ち上げを検討中	7団体
内訳	すでに活動を実施中	11団体				
	今後活動立ち上げを検討中	7団体				

・市内の活動団体による「彦根市助け合い活動者ネットワークおたすけ“ひこねっと”」の立ち上げ【新規】

<p>令和6年度末時点 12団体が登録</p> <table data-bbox="367 1579 1093 1668"> <tr> <td>学区域で活動する団体</td> <td>5団体（83人）</td> </tr> <tr> <td>自治会域等で活動する団体</td> <td>7団体（93人）</td> </tr> </table> <p>第1回ネットワーク会議</p> <p>開催日：令和7年2月11日          会場：福祉センター別館多目的会議室          アドバイザー：NPO法人元気な仲間 谷 仙一郎氏          参加者：登録団体 9団体（41人）          活動立ち上げを検討中の団体 4団体（10人）</p>	学区域で活動する団体	5団体（83人）	自治会域等で活動する団体	7団体（93人）
学区域で活動する団体	5団体（83人）			
自治会域等で活動する団体	7団体（93人）			

○自治会や学区の各団体など地縁による既存コミュニティのサポート

・住民主体の新たな活動の立ち上げ	
新規立ち上げ件数	8件
内訳 サロン（居場所）	6件
訪問活動	6件
生活支援	1件
※1つの活動で複数の内容を実施するため、合計は合致しない	
・社協ひこねにおける情報発信	年間 3回
・社協SNSでの地域福祉活動の情報発信	年間80回

③多分野がつながるプラットフォームの展開

様々な関係者がそれぞれの強みを持ち寄り学び合ったり、それぞれの弱みを補い合ったりしていくための関係づくりを進めた。併せて、地域における活動の継続性を高め、既存の活動を活性化させるとともに、地域づくりの次の展開に向けた課題を整理した。

○「知って得する！相談機関交流会」の開催

市内にあるさまざまなネットワークやスキルアップの情報、新たな取組を知ることで、専門職の支援力を深めることを目的として開催

開催日	参加者数 (機関数)	内 容
令和6年 7月17日	36人 (18)	<p>みんなで交流タイム ～相談支援の連携のために、お互いに知り合ってつながろう～</p> <p>知って得する！情報交換タイム ～相談支援に役立つ情報やヒントを持ち寄って、みんなでシェアしよう～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉士会“ばあとな滋賀”の状況や取組</li> <li>・彦根保護区保護司会 「滋賀KANAMEプロジェクト」</li> <li>・彦根市社会福祉課 「福祉包括化推進員／重層的支援体制整備事業における相談体制」</li> <li>・市社協 「ひきこもり支援ネットワークの取組（医療・福祉連携によるアウトリーチ支援）」</li> </ul>

○ボランティアフェスティバルの開催

地域活動やボランティア活動を行う個人や団体が情報交換や交流することで、それぞれの活動の活性化を図っていくことを目的に「2024 ボランティアフェスティバル」を開催した。

メインターゲットを「子どもとその家族」とし、市内で行われている活動を知ってもらい、体験してもらうことで、「自分もやってみたい」という気持ちを持てる機会とした。

開催日	令和6年11月24日
-----	------------

場 所	南地区公民館
参加団体	39団体（ボランティア団体、福祉団体等）
来場者数	延べ約800人
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア団体のメンバー有志による実行委員会の開催：9回</li> <li>・フェスティバル参画団体による企画会議：5回</li> <li>・振り返りおよび次年度に向けた検討会議：1回</li> </ul>



### ○ひきこもり支援ネットワーク会議の開催

市内や県域でひきこもり支援に関わる団体・機関が一堂に会し、各取組や事業について情報共有を行うとともに、今後ネットワークとして取り組んでいく重点事項を整理した。

開催日	参加者数 (機関数)	内 容					
令和6年 11月1日	24人 (15)	<p>意見交換 「今後における重点取組について」</p> <table border="1"> <tr> <td>①いまある資源やしくみのわかりやすい可視化</td> </tr> <tr> <td>②若年期において、より早期に相談や支援へつながるためのしくみ</td> </tr> <tr> <td>③出口支援としての居場所や活躍の場の拡充（多様化）</td> </tr> <tr> <td>④本人とつながることが難しい中での家族支援</td> </tr> <tr> <td>⑤相談支援者の支援（支援者支援）…スーパーバイズ体制</td> </tr> </table> <p>話題提供 NPO法人芹川の河童より 「もっとみんなの食堂」の取組について</p>	①いまある資源やしくみのわかりやすい可視化	②若年期において、より早期に相談や支援へつながるためのしくみ	③出口支援としての居場所や活躍の場の拡充（多様化）	④本人とつながることが難しい中での家族支援	⑤相談支援者の支援（支援者支援）…スーパーバイズ体制
①いまある資源やしくみのわかりやすい可視化							
②若年期において、より早期に相談や支援へつながるためのしくみ							
③出口支援としての居場所や活躍の場の拡充（多様化）							
④本人とつながることが難しい中での家族支援							
⑤相談支援者の支援（支援者支援）…スーパーバイズ体制							

令和7年 3月19日	19人 (12)	<p>情報共有 各関係団体・機関より 「重点事項①から⑤について、市域や県域で実践されている取組の進捗状況」</p> <p>意見交換 「重点事項②若年期において、より早期に相談や支援へつなぐためのしくみをどう展開していくとよいか」</p>
---------------	-------------	---

○身近な地域の5年後10年後を見据えた協議や実践の場・機会

〔第1層（市域）〕

・「生活支援（暮らしのちょっと困りごとと解決）」にかかる検討会議  
〔委員構成団体〕  
住民互助による生活支援実施団体、シルバー人材センター、生活協同組合、市内学生による起業団体、地域包括、第2層推進員、市高齢福祉推進課 計7人  
〔内容〕  
会議は年間4回開催（令和5年度から継続で通算6回開催）

時期	内容
4月～5月	「生活支援（暮らしのちょっと困りごと）」ニーズおよび今後の見通しにかかる実態調査の実施 ※地域包括および第2層推進員に協力依頼
6月14日	第3回 検討会議 ※第2回までは、令和5年度中に開催済 ・実態調査結果の共有 ・施策化や制度化に向けた具体案の検討①（アイデア提出）
7月19日	第4回 検討会議 ・施策化や制度化に向けた具体案の検討② ・モデル実施する取組およびスケジュール等
8～10月	取組や事業にかかるモデル実践・検証
10月7日	第5回 検討会議 ・モデル取組の実施や検証結果の共有 ・施策化や制度化のたたき台の検討、課題として残るものの整理
令和7年 2月18日	第6回 検討会議 ・“多様な主体で推進していく取組・事業の最終案”について最終協議 ・課題として残るものへの意見集約
2月末	「生活支援」にかかる取組・事業（最終案）の完成



・生活支援体制整備事業・第1層協議体

〔委員構成団体〕

宅老所、介護家族の会、市民生委員児童委員協議会連合会、シルバー人材センター、生活協同組合、第2層推進員、市高齢福祉推進課 計7人

※令和6年度は、助け合い活動者ネットワークからは選出なし

〔内容〕

会議は単独で1回開催 ※令和5年度までは彦根市地域ケア推進会議と同時開催

令和7年 3月28日	<p>第1回 協議体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者自己紹介</li> <li>・本会議の位置づけや目的</li> <li>・意見交換「生活支援（暮らしのちょっと困りごと解決）」にかかる取組・事業の推進について</li> <li>・令和7年度に向けて</li> </ul>
---------------	--

〔第2層（日常生活圏域）〕

・第2層ネットワーク会議（小地域協議体）の開催

開催回数 114回

参加者数 延べ1,540人

・関連事業（計画に基づくイベントなど）の実施

実施回数 88回

参加者数 延べ1,822人

### 3) 災害に強い地域づくり推進事業

(1) 災害ボランティアセンター事業（防災訓練・啓発事業）の実施

彦根市における「大規模地震」を被害想定とし、被害集中エリアにボランティア拠点を設ける「サテライト設置運営訓練」を同時に実施した。

〔訓練概要〕

・災害ボランティアセンター設置・運営訓練

日時：令和6年9月23日 8時30分～12時30分

場所：本会場 彦根市福祉センター駐車場、別館多目的会議室

サテライト会場 平田公民館（平田学区）

内容：「大規模地震」を想定したニーズの把握、現地との調整、資機材の確保、ボランティアの受入れ・マッチング など

※訓練参加者は「被災者役」「現地での調整役」「ボランティア役」として協力



・訓練実施に向けた事前学習会	
日 時	令和6年8月29日 14時00分～16時00分
場 所	彦根市障害者福祉センターほか（オンライン参加可）
対 象	社協職員（非正規含む常勤職員） 関係団体（彦根市、防災士会、民生委員、学区社協） ※訓練参加者
内 容	講 師 特定非営利活動法人にいがた災害ボランティアネットワーク 理事長 李 仁鉄 氏 テーマ 災害ボランティアセンターと地域 ～能登半島地震の実情から～

(2) 学区や自治会での出前講座や防災訓練等における啓発

災害に対する意識の向上と防災・減災活動を通じ、普段からの地域のつながり・支え合いの大切さや気になる人・要援護者支援について考えるきっかけづくりとして出前講座および防災研修会を開催するとともに、地域で実施される防災・減災の取組に協力・支援した。

〔実施概要〕

学区	自治会	内 容
佐和山	幸町	福祉避難所設置運営訓練（市主催）の実施サポート
高宮	大北	

学区 区域	学区	内 容
	城西	城西プラン推進会議／防災・減災研修会
	城北	城北きらめき推進会議／体験型防災学習会 ※雪で中止
	佐和山	自治連合会／防災研修会
	旭森	安心安全推進協議会研修
	城南	城南学区防災の日イベント
	平田	防犯・防災本部／災害ボランティアセンター設置・運営訓練 （サテライト会場）
	亀山	亀山学区社協／防災研修会
	稻枝	連合自治会／防災研修会 稲枝北小4年生対象／福祉教育「防災と福祉」 包括単位ケア会議／災害時を想定した助け合い・支え合い

自治会 域	学区	自治会	内 容
	城西	芹橋二丁目	防災会議にて話し合い（2か月に1回） ※ぶどうの家芹橋とも連携
		栄町一丁目	見守り会議にて要支援者の近況確認 自主防災会によるAED講習 ほか
		本町一丁目	自治会役員会（福祉厚生部）で要配慮者の 見守り等について検討
		本町二丁目	かまどベンチフェスティバル ほか
		池州町	見守り会議で要支援者について情報共有

	城北	松原町自治会	要支援者・要配慮者情報のすり合わせ（年1回）、防災研修会 ほか
		東山	避難訓練＋災害ボラセンの仕組みについて（能登半島地震 災害ボラセン派遣報告）
		馬場一丁目	見守り会議で要支援者情報の共有 ほか
		松原ニュータウン	防災会議（不定期）
		グリーンハイツ	自主防災会による防災イベント、見守り懇談会での情報共有
		千原・大洞・グリーンハイツⅡ・石持・佐和山西・佐和山東・東山・グリーンステージⅡ	東部きらめき防災研修会
	城南	小泉町	小泉町総合防災訓練、炊き出し訓練
	金城	中藪町南部・大藪団地第一・金城団地・メープルタウン	「いきいき安心講座」で、石川県内灘町の液状化調査の伝達研修
		中藪町西部	見守り会議で災害時に備えた見守り体制について情報共有
	河瀬	極楽寺町	ケイバハウス職員向け防災研修
	稲枝	下石寺	見守り会議にて要支援者の支援方法を協議 AED 講習
		新海浜	まちにわサークル（住民有志）で防災講座

### （３）災害時を想定した必要備品の整備

災害発生に備えて、赤い羽根共同募金の地域助成金を活用し、災害ボランティアセンターの設置・運営の体制を整えていくことを目的に、防災備品を充実させた。

購入物品：中量ラック2台（備品保管用）、トロ舟、ブルーシート、ほうき ほか

### （４）令和6年能登半島地震の発生に伴う対応

石川県七尾市への災害ボランティアセンター運営支援について、県社協を通じた要請を受けて、職員1名を派遣した。また、被災地における現状を知ることで本市における防災・減災に活かしていくことを目的に、石川県内灘町への視察研修を行った。

〔七尾市への派遣〕

派遣期間	派遣者所属・氏名	主な業務
第32クール 令和6年5月27日～6月2日	地域支援課 主任 田中 良樹	被災ゴミの収集・分別にかかる 仮集積所の管理運営

〔内灘町への視察研修〕

実施日	主な内容
令和6年10月10日	地震による液状化で大規模な地盤沈下被害を受けた内灘町へ視察によるヒアリング、現地調査を実施 参加者：金城学区社協会長、本会職員 計2人

(5) 体制や連携の強化に向けた「強化プラン（仮）」の策定

プランの骨子案を作成し本会内部での検討を進めたが、本会における組織や人員の体制の今後の見通しが明確化していない状況のため、令和6年度中の策定は行わないこととした。

一方で、災害発生リスクに備えるとともに、本会における体制強化と職員のスキルアップを目的に、災害ボランティアセンター運営に関する研修へ職員が参加した。

研修名	開催日	参加職員
「市区町村災害V C運営者研修会」講師養成研修 (全社協主催)	令和6年7月29日	1人
令和6年度 災害ボランティアセンター中核運営 支援者養成研修(県社協主催)	令和7年1月17日	2人

4) 子ども・若者支援事業

(1) 地域における多様な居場所の立ち上げおよび運営支援

「食事」や「学び」を通じた地域の居場所である“子ども食堂”や“学べる場”への助成金により、様々な居場所づくりの取組の推進を図った。また、助成金の活用はなかったものの、相談を受け、活動場所の調整などを行い、活動の立ち上げを支援した。

[市内の取組状況(本会の助成金を活用していないものも含む)]

子ども食堂	17箇所(定期開催15箇所、休止中2箇所)
学びの場	14箇所
フリースペース(困難を抱える世帯の子どもの夜の居場所)	2箇所
若者の居場所	4箇所(定期開催3箇所、休止中1箇所)
課題解決型の居場所	1箇所
その他の居場所	4箇所

[居場所活動への支援]

子どもの居場所づくり助成	助成団体数：5団体 助成総額：518,000円 内訳 子ども食堂 2団体 155,000円 学びの場 2団体 283,000円 子ども食堂・学びの場(両方実施) 1団体 80,000円
フードバンクからの食材提供	月2回の活動にあわせて、フードバンクひこねから子ども食堂へ希望食材を提供
企業等からの物品寄付 ※主なもののみ記載、敬称略	・株式会社千成亭風土から子ども食堂へ豚肉(冷凍)の寄贈 ・彦根ワイズメンズクラブより子ども食堂へ北海道産じゃがいもの寄贈 ・オーギヤ(株)彦根店、キコーナ彦根店より子どもの居

	<p>場所へお菓子の寄贈</p> 
<p>子どもの居場所への送迎支援</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タクシー利用による送迎 (近江タクシー株式会社との契約を継続)</li> <li>利用世帯数 5 世帯</li> <li>延べ利用回数 1 5 3 回</li> <li>・ 登録ボランティアによる送迎</li> <li>登録ボランティア数 1 0 人</li> <li>利用世帯数 5 世帯</li> <li>延べ利用回数 1 4 0 回</li> </ul>

(2) はぴとも基金や共同募金地域助成金等の活用による子どもの幸せ・子育て世帯の幸せを応援する事業の実施

①子どもの居場所（子ども食堂・学びの場）への助成

助成団体数：5 団体  
助成総額：2 5 9, 0 0 0 円

②ベビー&キッズ用品、学用品リユース活動応援助成

助成団体数：市域実施 1 団体 学区域実施 なし  
助成総額：市域実施 5 0, 0 0 0 円 学区域実施 なし

③学校長期休暇中のお弁当配布活動応援助成

助成団体数：市域実施・学区域ともに なし

④プチクラファン（指定寄付）による団体への助成

助成団体数：1 団体  
助成総額：5 1, 1 0 0 円  
内訳 Hot Hot〜ほどほど〜 目標額 1 8 0, 0 0 0 円 達成額 5 1, 1 0 0 円

⑤里親世帯への「こども商品券」の贈呈

助成件数（対象児童数）：9 人  
購入金額：4 0, 0 0 0 円（予備購入分を含む）  
助成総額：9 0, 0 0 0 円（前年度購入 7 0, 0 0 0 円分を含む）

⑥経済的困窮世帯等の児童への「受験応援セット（高校受験用）」の寄贈

助成内容：高校受験用セット 8 0 セット  
(無地鉛筆、消しゴム、定規、コンパス、  
ペンケース、鉛筆削り)  
受験用の文具を準備することが困難な世帯の  
子どもを対象  
助成総額：8 4, 0 4 0 円



## 5) 見守り合い活動推進事業

各自治会で普段からの見守り合い活動を推進していくことで、閉じこもりや社会的孤立、認知症高齢者などさまざまな地域課題や困りごとを有する人の早期発見・早期対応を進めるとともに、いざという時にも助け合いや支え合いができる地域づくりを進めた。

〔見守り合い活動実施自治会数一覧（学区別）〕

学区	自治会数	学区	自治会数	学区	自治会数
城東	4	旭森	8	河瀬	7
城西	8	城陽	8	亀山	14
城南	8	若葉	1	稲枝	27
平田	5	金城	11	計 177自治会	
城北	24	鳥居本	30		
佐和山	13	高宮	9		

〔助成および取組の概要〕

助成結果	助成自治会数：27自治会 内訳 令和5年度からの継続 23自治会 令和6年度からの新規 2自治会 令和6年度からの再開 2自治会 助成総額 : 560,000円
------	--

## 6) 学区(地区)社協活動推進事業

### (1) 定例学区(地区)社協会長会の開催

各学区(地区)間における取組や活動について情報交換や共有を行い、各学区(地区)間での連携を深めるとともに、取組の活性化を図ることを目的に開催した。

開催日	主な事項	
令和6年 4月19日 6月21日 8月16日 10月18日 12月20日	協議・連絡事項	・学区(地区)社協活動推進助成金について ・住民福祉活動計画・第2次計画に基づく実践取組について ・市社協賛助会費の納入について ・市社協会長表彰受賞候補者の推薦について ・赤い羽根共同募金運動と今後の募金のあり方の見直しについて ・災害ボランティアセンター設置運営訓練について ほか
	研修・意見交換	[研修] ・テーマ：子どもの貧困、不登校、子ども食堂について 講師：NPO法人芹川の河童 川崎敦子さん [意見交換] ・彦根市社会福祉協議会の事業内容について ・各学区(地区)社協事業内容について ・地域における助け合い・支え合いについて ・地域福祉推進のための財源確保について ・学区(地区)社協の担い手不足解消に向けて ほか
令和7年 2月21日		

### (2) 学区(地区)社協活動の推進に向けた助成の実施

#### ○多様なつながりづくり推進事業

地域福祉推進計画・第2次計画の基本理念である“多様なつながり”づくりのための学び合いや体験・実践等を行う学区(地区)社協に対し、推進にかかる費用の助成を行った。

〔助成および取組の概要〕

助成結果	助成団体数：18学区（地区）社協 助成総額：2,000,000円
取組概要	〔学び合いの取組〕 ・介護や認知症、障がい、健康づくり、子育て、いじめ問題など地域の福祉課題への理解を深めるための各種福祉講座や福祉懇談会等の開催 実施社協数 7社協 実施回数 152回 参加者数 延べ3,524人
	〔体験・実践の取組〕 ・住民相互の交流や閉じこもり予防、孤立の防止を目的としたふれあい活動（給食・会食）や料理教室、高齢者宅への訪問活動、あいさつプラスOne運動等の実施 ・高齢者や障がいのある人、子育て世代などが定期的に気軽に集える場所としての地域サロンの開催 ・地域の困りごとの解決に向けた住民同士による生活支援のしくみづくり 実施社協数 18社協 実施回数 385回 / 参加者数 延べ18,813人

○学区（地区）社協広報啓発事業

地域住民の福祉への関心や参加を図るための広報紙等の発行に係る支援を行った。

〔助成および取組の概要〕

助成結果	助成団体数：14学区（地区）社協 うち年2回発行 9学区（地区）社協 年1回発行 5学区（地区）社協 助成総額：230,000円
------	---

## 7) 彦根市社会福祉大会開催事業

日頃地域において地道に福祉活動に取り組まれている方々、また福祉のために多額の寄付をされた方々の功績を称える場として、2024 ボランティアフェスティバルと同時に「彦根市社会福祉大会（表彰イベント）」を開催した。

- ・社会福祉功労者に対する表彰および感謝状の贈呈

	個人	団体
市社協会長表彰（社会福祉功労者）	7人	なし
市社協会長特別感謝（社会福祉協力者）	なし	1団体
市社協会長感謝（社会福祉協力者）	2人	7団体
市長表彰（自立更生者）	2人	なし
市長表彰（更生援護功労者）	1人	なし



## 8) 地域福推進事業

上記7までの各事業のほか地域福祉の推進を図ることを目的に、以下の事業を実施した。

### ○ボランティアグループ、福祉団体等への活動助成

・ボランティアグループ等向けの活動支援の実施			
ボランティア登録グループ数	60団体	(所属人数	1,107人)
うち新規団体	1団体	(所属人数	5人)
個人登録者数	27人		
うち新規個人	2人		
〔活動項目別（グループのみ）〕			
項目	団体数	項目	団体数
高齢者	26	国際協力	1
障がい児・者	20	地域	20
子ども・青少年	28	人権	4
文化伝承	9	保健医療	6
災害支援	0	その他	9
環境問題	5	—	—
※複数項目に該当しているグループあり			
・ボランティア団体活動助成金			
助成団体数：12団体（うち新規立ち上げ2団体）			
助成総額：218,535円			
・福祉団体活動助成金			
助成団体数：10団体			
助成総額：700,000円			

### ○移動外出支援車両「おたがいさんさん号」、地域活動応援車両「おたすけトラ」、「ふくしまちづくりグッズ」の貸出

貸出項目（品目）		件数	備考
移動外出支援車両 「おたがいさんさん号」		延べ 161件	地域での買い物支援、病院受診の送迎、フードバンク活動など
地域活動応援車両 「おたすけトラ」		延べ 51件	自治会の清掃活動、子どもの遊び場遊具運搬、河畔林の保全活動など
福祉のまちづくり 応援グッズ	地域における居場所・つながり・健康づくり	延べ 10件	主な貸出品／カードゲーム、オセロ、カロムなど
	福祉や防災にかかる学びの推進	延べ 60件	主な貸出品／プロジェクター、スクリーン、マイクセット、車いすなど
	安全・安心の子育て&お出かけ・移動の応援	延べ 169件	主な貸出品／ベビーカー、チャイルドシート、車いす

### ○地域福祉推進団体（市民児協連、身体障害者更生会）事務の実施

#### ・彦根市民生委員児童委員協議会連合会

理事会の開催 毎月1回

なり手不足の解消に向けた検討委員会 7回

・彦根市身体障害者更生会

理事会の開催

毎月1回

○市内店舗等への「ひこねふくし活動応援募金箱」の設置

設置箇所数 139箇所（ボックス数 141個）

○「ちよいボラ活動（ベルマーク等の寄付）」の推進

・古切手・使用済みテレホンカード・ハガキ・ベルマークの収集

・ペットボトルキャップ、プルトップ、学用品リユース品の収集協力

○ボランティア保険の受付および加入促進

〔取り扱い状況〕

保険の種類	加入者（件）数	うち事故件数
ボランティア活動保険	1,399人	0件
ボランティア行事用保険	18,293人	0件
福祉サービス総合補償	3件	0件
送迎サービス補償	11件	0件

○火災り災世帯や困窮世帯等への緊急支援（見舞金、物資・食糧支援等）

〔支援状況〕

火事見舞い	全焼 3件
生活困窮者等への緊急支援 〔内訳〕	延べ62件 〔内訳（延べ）〕
生活保護申請者	13件
生活保護受給者	3件
資金相談・申請者	20件
自立支援相談者	4件
その他／包括・権利擁護・火災罹災者・市関係課（子育て・障 害・高齢）等からの相談	22件

## 9) 地域福祉事業にかかる財源の確保および活用

地域福祉推進のため、令和6年度においては次表のとおり財源の確保および活用を行った。また、令和7年度以降、地域福祉にかかる財源確保に取り組んでいくにあたり、内部での検討ミーティングを開催した。

〔財源の確保および活用の状況〕

財源の名称など	概要	
福祉基金	確保	基金積立金 5,000,000円 ※包括ひらたの委託終了に伴い、資金残高の一部を積立
	活用	なし ※他財源による事業予算で必要額を充当できたため
子どもの幸せ 応援基金	確保	寄付件数 27件（うち継続18件） 寄付総額 948,691円 内訳 個人 14件（うち継続10件） 233,370円

		<p>企業 13件 (うち継続 7件) 712,000円</p> <p>その他 2件 (うち継続 1件) 3,321円</p>					
	活用	<p>小児難病見舞金事業へ 273,000円</p> <p>他事業への繰出はなし</p> <p>※他財源による事業予算で必要額を充当できたため</p>					
彦根善意銀行	確保	<p>金銭預託 844,946円</p> <p>内訳</p> <p>一般預託 18件 455,890円</p> <p>ひこねふくし活動応援募金箱 352,956円</p> <p>チャリティバザー (11月・12月実施) 36,100円</p>					
		<p>指定寄付による預託</p> <p>寄付件数 6件</p> <p>寄付総額 72,200円</p>					
		<p>物品預託</p> <p>車いす 4台</p> <p>エフエムひこねコミュニティ放送株式会社様</p> <p>高木・技研特別共同体様</p> <p>高齢者疑似体験セット 大人用 8セット 子ども用8セット</p> <p>彦根ロータリークラブ様</p> <p>その他 (タオル、紙おむつ、生理用品など) 延べ22件</p>					
	活用	<p>指定預託分 (子ども食堂、ボランティア団体などへ) 計 72,200円</p> <p>他事業への繰出はなし</p> <p>※他財源による事業予算で必要額を充当できたため</p>					
共同募金配分金	確保	<p>一般募金の地域助成</p> <p>収入総額 4,536,000円</p>					
		<p>歳末たすけあい募金の地域づくり推進助成</p> <p>収入総額 900,000円</p>					
	活用	<p>一般募金の地域助成の活用事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>見守り合い活動 ・自治会への見守り合い活推進助成事業 ・心配ごと相談の実施</td> <td>581,000円</td> </tr> <tr> <td>多世代交流の居場所づくり ・学区社協への多様なつながりづくり推進助成</td> <td>1,050,000円</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	事業費	見守り合い活動 ・自治会への見守り合い活推進助成事業 ・心配ごと相談の実施	581,000円	多世代交流の居場所づくり ・学区社協への多様なつながりづくり推進助成
内 容	事業費						
見守り合い活動 ・自治会への見守り合い活推進助成事業 ・心配ごと相談の実施	581,000円						
多世代交流の居場所づくり ・学区社協への多様なつながりづくり推進助成	1,050,000円						

	助け合い・支え合いの地域づくり ・災害ボラセンの備品整備および体制強化 ・「おたがいさんさん号」「おたすけトラ」の運行 ・第2次計画に基づく実践取組推進助成	1,236,000円						
	福祉の学びや体験を深める ・「社会福祉大会」「ボランティアフェスティバル」の開催	287,000円						
	福祉情報の発信 ・「社協ひこね」の発行 ・ボランティア情報の発信 ・学区社協への広報発行助成	704,000円						
	地域福祉団体の応援 ・市民児協連、社明運動推進委員会、福祉団体、ボランティア団体への助成	678,000円						
	歳末たすけあい募金の地域づくり推進助成の活用事業							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>事業費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>           困窮世帯への食糧支援            ・あったかごはんセット等の購入         </td> <td>700,000円</td> </tr> <tr> <td>           生きづらさや働きづらさのある人の社会参加支援            ・軽作業の場づくりを行う団体への助成         </td> <td>200,000円</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	事業費	困窮世帯への食糧支援 ・あったかごはんセット等の購入	700,000円	生きづらさや働きづらさのある人の社会参加支援 ・軽作業の場づくりを行う団体への助成	200,000円	
内 容	事業費							
困窮世帯への食糧支援 ・あったかごはんセット等の購入	700,000円							
生きづらさや働きづらさのある人の社会参加支援 ・軽作業の場づくりを行う団体への助成	200,000円							

〔寄付いただいた個人・企業〕 ※氏名等の公表を希望された方のみ（順不同・敬称略）

子どもの幸せ応援基金	個人	福井久美子、北川弘樹、安井満雄
	企業	合同会社 Libra 近江、リーる整骨院、(株)GC-tech、(株)シバタ不動産、有限会社 雨森オートサービス、レゾナック労働組合 彦根清崎支部、東亜貨物株式会社、株式会社 昭建 栗東支店、株式会社公益社、アルテミラ株式会社 彦根工場、ホンダ販売フタバ(株)
	その他	K a z u K a z u、1976年城東小卒業生有志
彦根善意銀行	個人	藤川 靖夫（遺言者亡壺田市造）、森 茂
	その他	彦根商工会議所、犬上川開出今地区竹林愛護会、彦根市ビーチボール協会、新海クローバーの会、東びわこ農業協同組合女性部、平田町中区カラオケサークル



〈会計の区分〉

拠点区分：老人福祉センター運営事業／サービス区分：北老人福祉センター運営事業

### 10) 北老人福祉センター運営事業（彦根市指定管理者受託事業）

第2期指定管理業務の4年目を迎え、センターの設置目的である高齢者の各種相談、健康の維持・増進、趣味・教養・技能の向上等、住民のニーズに即応したシニア世代の居場所、気軽にふら～っと立ち寄れるフラットな拠点づくりと利用者目線に立った事業推進と適正な施設管理に努めた。

開館日数	243日
利用者数	個人 延べ 4,059人 / 団体 延べ 906団体： 7,791人 (前年比 個人 延べ +657人 / 団体 延べ +207団体： +662人)

#### ◆自主事業

##### ①いきいきチャレンジ事業

- ・寄せ植え教室（4回）（48人）
- ・体験型防災講習会（2回）（計26人）

##### ②健康づくり・介護予防事業

- ・ミニ体操付き介護予防教室（14人）【新規】
- ・歴史探訪ウォーク（3回）（計29人）
- ・脳の健康チェック付き認知症講座（12人）
- ・コープしがさんの健康教室（4回）（計59人）
- ・ヤクルトさんの健康教室（3回）（計50人）
- ・認知症の方を地域で支える講座（10人）【新規】
- ・健康増進コーナーの充実（健康器具の継続設置）



##### ③シニア世代の居場所づくり事業

- ・きたろーMOVIE（12回）（計250人）
- ・納涼シネマ・年忘れMOVIE・SPRING MOVIE（3回）（計60人）
- ・将棋 de イキイキ（44回）（計209人）【新規】
- ・ジャズ de まったり（12回）（計120人）
- ・二胡とピアノの演奏会（6回）（計151人）
- ・ハピネス活動紹介展（北老福・北デイ・包括協働）（延べ753人）
- ・貸し出し図書購入（年間6冊）
- ・家庭で読み終えた本の利活用～本の提供ボラ～（年間60冊）
- ・聴く読書会（12回）（計25人）

##### ④子育て親子の居場所づくり・異世代交流事業

- ・常設型おもちゃ図書館開設（延べ1,200人）
- ・ハピネスひろば開設（45回）（延べ489人）
- ・囲碁で異世代交流対局（夏休み・冬休み・春休み各1回）（計111人）

##### ⑤ハピネスいきいきクラブの育成事業

- ・クラブ活動体験教室（7月～8月）（5クラブ協力）
- ・クラブ員へのアンケートの実施（8月～9月）
- ・ハピネス活動紹介展（作品展示、ステージ発表パネル展）〔再掲〕

##### ⑥広報・啓発事業

- ・情報紙「きたろー通信」の発行（季刊号4回発行）
- ・ホームページによる情報発信（随時）
- ・講座等案内チラシによる周知（随時）
- ・ホール内掲示板での啓発（随時）



<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハピネスカレンダーによる周知（毎月）</li> <li>・利用者へのアンケート実施（8月～9月）</li> <li>・報道機関への情報提供（随時）</li> </ul>
⑦その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊詐欺予防教室（14人）</li> <li>・高齢者交通安全教室（13人）</li> </ul>

◆相談支援事業

生活・健康に関する相談	19件
-------------	-----

◆施設の有効利用

①入浴利用（月曜日・木曜日）月1回香り湯を実施	92日	延べ 2,484人
②健康器具利用（電子浴・マッサージ機）	243日	延べ 1,740人
③レイカディア大学卒業生（42期生）活動支援（花壇整備）	4月～翌3月	
④北デイサービスセンター社会参加&地域貢献手作り作品コーナー設置（通年）		
⑤各種クラブ活動・団体の会合等への貸館業務		
開設日数（年間）	：243日	
一日当たり利用者数	：3.7団体（32.1人）	



○相談支援課事業

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：福祉総合相談事業

1) 総合相談体制整備事業

(1) 相談者等に対する支援の実施

○「心配ごと相談」の常設

「どこに相談すればいいかわからない」相談の窓口として、相談者の想いに寄り添い「傾聴」を基本とし、必要に応じて助言や、相談者の同意を得て関係機関へ適切に繋ぐなど、心配ごとを軽減し、住み慣れた地域で誰もが安心して暮ることができる福祉のまちづくりの実現にむけた事業を実施した。

平日10時～16時（12時～13時を除く）

相談件数164件

【相談内容内訳】延べ件数

相談内容	相談件数	相談内容	相談件数
DV	1	住居問題	7
空き家問題	1	就職	1
家族関係	25	住宅関係	1

虐待	1	就労	4
近隣トラブル	31	受診	1
苦情	8	出産・子育て	1
子ども関係	13	障がい関係	8
困窮	7	将来展望	1
財産	1	職場関係	1
除雪	1	地域	5
生活	10	認知症高齢者	1
精神疾患	1	ひきこもり問題	2
賃貸住宅関係	2	迷惑駐車	1
精神疾患	1	その他	26
離婚	1	合計	164

○「無料法律相談」の定期開催

弁護士による無料相談 第3木曜日 4枠(1枠40分)

【開所回数】 12回

【相談件数】 19件

【相談内容】

相談内容	相談件数	相談内容	相談件数
相続	3	遺言	1
借金	6	損害賠償	1
離婚	2	自治会問題	1
いやがらせ	1	その他	3
隣家への対応	1	合計	19

○高齢者・障がい者「なんでも相談会」

湖東圏域において、各市町のワンストップ機能が充実してきたことや、10年間に亘るなんでも相談会の開催を通して、一定の広報・啓発も進んできたことから、各市町行政・社協職員の担当者会議で協議し、令和6年度以降の開催について中止が決定した。

(2) 見守りあんしんサポート事業(死後事務)の実施に向けた準備【新規】

身寄りのない高齢者を対象に、預託金を預かる形で死後事務委任事業およびその他事業を行う「見守りあんしんサポート事業」について、令和7年度中の事業実施をめざし、すでに取り組んでいる社協等への情報収集を行った。また、社協内部での協議を進め、実施要綱や契約書等の書類関係について検討・整備を行った。

2) 地域福祉権利擁護事業

(1) 地域福祉権利擁護事業の実施

判断能力が不十分なところがある利用対象者に対して、関係機関と連携することにより福祉サービスの利用や生活に関する相談に応じ、必要な助言や手続きおよび費用の支払い等を支援した。

[利用対象者]

認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等

〔支援内容〕

○福祉サービス利用援助サービス

- ・ 福祉サービス利用の申込み、解約手続きについての援助
- ・ 利用料金の支払手続き
- ・ 苦情解決制度の利用援助

○日常的金銭管理サービス

- ・ 年金および福祉手当の受給に必要な手続
- ・ 医療費、税金、社会保険料、その他公共料金等の支払い手続き
- ・ 日用品購入の代金支払手続
- ・ 以上の支払いに伴う預貯金の出し入れおよび解約手続

○書類等預かりサービス（銀行の貸金庫で保管）

- ・ 年金証書、預貯金通帳、実印、銀行印
- ・ 証書類（保険証書、不動産権利書、契約書など）

【令和6年度相談援助件数】

	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
初回相談件数	23	6	5	0	34
相談援助件数	2,859	2,780	2,634	49	8,322
合計	2,882	2,786	2,639	49	8,356

【新規契約数】

令和6年度	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
	22	6	6	0	34

【終了数】

令和6年度	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
	17	5	5	0	27

※解約理由：本人希望 9件、本人死亡 13件、成年後見制度移行 1件、その他 4件

【年度末における契約数】

令和6年度末	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他	計
	47	33	31	0	111

(2) 法人後見の受任

法人後見受任 2件（法人後見業務開始から総件数3件）

対象者の選定：家庭裁判所から職権にて受任の審判が下りる

〔受任までの経緯〕

元々、後見人をされていた高齢の母親から相談のあったケースで、母親が倒れたため家庭裁判所が職権で当会の受任審判を下され、複数後見人として受任。

その後、母親が亡くなり、当会が単独での後見人となった。

○法人後見事業運営委員会の開催

開催日：令和7年3月13日

内容：上記、法人後見業務の報告

### 3) 生活困窮者支援事業

#### (1) 生活福祉資金貸付事業の実施

〔滋賀県社会福祉協議会から事務委託事業〕

「福祉の貸付制度」として、低所得世帯、障害者または高齢者のいる世帯に対し、資金の貸付と必要な相談支援を行い、経済的自立と生活意欲の助長促進を図り、安定した生活を送ることを目的として、生活費や一時的な資金の貸付けを行う総合支援資金のほか、教育支援資金、福祉資金等の貸付けを行った。

【令和6年度相談件数および申請件数】

資金名	延べ 相談件数	申請件数
総合支援資金	6	0
緊急小口資金	167	7
福祉費	99	1
教育支援資金	203	13
臨時特例つなぎ資金	0	0
不動産担保型生活資金(要保護世帯向け)	8	0
合計	483	21

#### ○新型コロナウイルス感染症の影響による特例貸付

令和5年1月から償還が始まっているが、物価高騰等の影響もあり生活状況の改善が見られず償還が困難な方からの相談が相次いだ。生活状況の聞き取りや、県社協のフォローアップ支援員による借受人宅への訪問を通して、生活再建に向け自立支援事業の利用を進めるなど、関係機関との連携を図った。

【令和6年度相談件数】 394件／うち外国人82件

彦根市における管理債権数(合計4,487件)

緊急小口資金	1,572件
総合支援資金(初回)	1,307件
総合支援資金(延長)	670件
総合支援資金(延長)	938件

#### (2) 生活つなぎ資金貸付事業の実施

生活保護の申請者や生活福祉資金の申請者を対象に、適用されるまでの間等において手持ち金が少なく生活に支障をきたす恐れがある場合に、緊急かつ一時的に生活つなぎ資金を貸付けることにより生活の安定を図ることを目的として貸付けを行った。

生活つなぎ資金 貸付	相談貸付人数		貸付総額(円)	
		9		194,000
内訳	生活保護申請者	9人	／	194,000
	生活福祉資金申請者	0人	／	0

#### (3) 就職面接にかかる各種支援事業の実施

自立に向けた活動の一環として就職面接等を行うにあたり下記の事業により各種支援を行

うこととしていたが、本年度は利用に至らなかった。

○身だしなみ支援事業

本会貸衣装事業と連携により、スーツ、ワイシャツ、ネクタイ、靴および鞆を無料貸付

利用者：なし

○散髪支援事業

長曾根南町『NOVITAカット』の協力により、無料で散髪(理容)

利用者：なし

○入浴支援事業

北老人福祉センターとの連携により実施(入浴日以外の曜日はシャワー対応)

利用者：なし

(4) 生活困窮者への食料等の支援の実施

困窮者の生活継続のために必要な物資(食料)の提供を実施した。

提供回数：62回

会計の区分) 拠点区分：法人運営事業/サービス区分：権利擁護サポートセンター運営事業

4) 権利擁護サポートセンター運営事業

1市4町を対象区域に、彦愛犬権利擁護サポートセンターとして運営を行った。

(1) 権利擁護に関する専門相談に関すること

○個別の相談対応

暮らしの課題を抱える本人やその家族をはじめ支援者からの相談について、解決に向けた支援を行った。

相談者数 延べ1,180人(実数277人)

[内訳]

延べ数

相談方法	電話		来所		訪問		その他	
	785		120		90		185	
性別	男性			女性			不明	
	390			768			22	
区分	高齢者			障害者			不明	
	907			262			11	
居住地	彦根市	愛荘町	豊郷町	甲良町	多賀町	その他	不明	
	871	60	32	74	100	36	7	

○弁護士への専門相談

専門的な判断を必要とするケースについては、顧問契約を交わしている弁護士と、随時相談し対応した。

・顧問弁護士への法律相談件数：18件

○研修によるスキルアップ

相談支援に必要な知識や相談援助のスキルアップを図るため、内外部の研修・講座等に参加し、資質の向上に努めた。

(2) 虐待等の権利侵害への対応および権利擁護に関する専門的支援に関すること

高齢者・障害者虐待防止法に基づき、高齢者・障害者虐待コアメンバー会議、支援状況確認会議、評価会議等への出席および施設虐待調査への協力を行った。

- ・コアメンバー会議件数：60件
- ・支援状況確認会議件数：86件
- ・その他会議（個別地域ケア会議、首長申立判定会議等）件数：49件
- ・施設虐待への対応件数：2回

○高齢者や障害者の権利擁護について

下記の会議に出席した。

日時	会議名
令和6年 5月9日	「彦根市高齢者虐待対応マニュアル」見直し検討会
8月8日	令和6年度 第1回彦根市高齢者保健福祉協議会
8月28日	令和6年度 第1回彦根市障害者差別解消支援地域協議会
8月28日	令和6年度 彦根市障害者福祉推進会議・同専門委員会合同会議
11月8日	令和6年度 第1回愛荘町高齢者虐待防止ネットワーク会議
11月15日	令和6年度 第1回彦根市高齢者・障害者虐待防止ネットワーク協議会
令和7年 1月30日	令和6年度 彦根市いのち支える自殺対策推進会議
2月19日	令和6年度 第2回愛荘町高齢者虐待防止ネットワーク会議 (降雪のため中止、資料のみ)
2月21日	令和6年度 彦根市成年後見制度利用促進基本計画推進委員会

(3) 成年後見制度の利用に関する相談等の専門的支援に関すること

○成年後見制度の活用について

成年後見制度利用希望者に対し、申立て支援等を行った。

- ・本人申立：2件（対象者内訳：後見2件＝認知2件）
- ・親族申立：2件（対象者内訳：後見2件＝認知2件）
- ・首長申立：1件（対象者内訳：後見1件＝認知1件）
- ・法テラスを活用した件数：2件

○親族後見人交流会の開催

親族後見人等が抱える課題や悩みを把握し、その支援につなげるために親族後見人交流会を開催した。

開催日：令和7年1月28日

講師：司法書士 河崎 和典 氏

参加者数：親族7人



(4) 成年後見制度、高齢者および障害者の権利擁護に関する普及啓発および研修に関すること

- ・ 広報紙「社協ひこね」の活用(年3回)
- ・ 本会ホームページや SNS の活用(随時活用)
- ・ 成年後見制度や虐待防止の啓発講座、権サポ職員が講師を務める出前講座の実施

開催回数合計：9回

参加者合計人数：259人

日時	内容	対象者	参加者数
令和6年 4月19日	・ 出前講座 「権サポの紹介・成年後見制度について」	北芹川 長寿会	16人
5月27日	・ 出前講座 「事例検討(グループワーク)」 「講座(成年後見制度について)」	きらら勉強会メンバー	40人
7月18日	・ 虐待防止啓発講座 「事例からみんなで考えよう、虐待の解消方法(講師:田嶋委員、西倉委員)」	高齢者や障害者の施設・ 地域包括支援センター・ 居宅介護支援事業所・相 談支援事業所・各市町行 政の職員	57人
7月30日	・ 出前講座 「成年後見制度について、ケース検討」	多賀町地域包括支援セ ンター職員	4人
8月20日	・ 出前講座 「彦愛犬権利擁護サポートセンターにつ いて」 「多機関連携でつなぐ成年後見制度」	介護保険事業者協議会	20人
9月10日	・ 出前講座 「相続・遺言について」	甲良町民生委員	22人
10月1日	・ 成年後見制度啓発講演会 「わかりやすい遺言・相続のはなし1回 目(講師:公益社団法人成年後見センタ ー・リーガルサポート滋賀 坂口 航 一郎氏)」	彦根市・愛荘町・豊郷町・ 甲良町・多賀町在住の住 民、民生委員等専門員等	38人
10月28日	・ 出前講座 「成年後見制度、エンディングノートに ついて」	滋賀県立盲学校保護者、 教職員	8人
11月27日	・ 成年後見制度啓発講演会 「わかりやすい遺言・相続のはなし2回 目(講師:公益社団法人成年後見センタ ー・リーガルサポート滋賀 坂口 航 一郎氏)」	彦根市・愛荘町・豊郷町・ 甲良町・多賀町在住の住 民、民生委員等専門員等	54人



令和6年7月18日(木)開催  
テーマ「事例からみんなで考えよう、  
虐待の解消方法」



令和6年10月1日(金)開催  
テーマ「わかりやすい  
遺言・相続のはなし1回目」



令和6年11月27日(水)開催  
テーマ「わかりやすい  
遺言・相続のはなし2回目」



継続的な見守り活動に努めた。

包括いなえは、医療機関や金融機関、商店等に周知をまわり、住民へ新拠点としての周知も進んでいる。地域行事の再開も進み令和6年度は認知症予防や金亀体操の他、各種関連講座を実施し地域啓発や地域との交流も深まっている。令和5年度に引き続き滋賀県立大学の運動健診への協力、サニープレイス彦根とコラボして体力測定など、住民の健康づくりの場の創設に努めている。

3包括とも毎年度、聖泉大学看護学部看護学科からの依頼により高齢者やその家族の健康上のニーズ、生活状況の理解、多職種連携、協働等について学ぶことを目的に保健師、看護師を志す学生の実習受入れを行った。

その他、下記の委託事業とともに、多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築および指定介護予防支援事業（必須事業）も実施した。

① 包括的支援事業（必須事業）

- ・ 総合相談支援事業
- ・ 権利擁護業務
- ・ 介護予防ケアマネジメント業務
- ・ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

② 介護予防事業

- ・ コツコツ続ける金亀（根気）体操出前講座、体操講座①②③、フォローアップ講座
- ・ 脳の健康チェック付ほっとかない認知症出前講座

運営に当たっては、主任介護支援専門員、看護師、社会福祉士等の専門職がセンターの業務全体の理解に努め、相互に連携・協働しながらチームとして実施できるよう、情報の共有に配慮した。また、地域で取り込まれる自主的な活動や民生委員・児童委員との連携にも努め、市が行う福祉サービスはもとより、地域におけるさまざまな社会資源と連携した継続的、包括的なケアが行われることをめざして事業を実施した。

〔業務状況〕

名 称	ハピネス		ひらた		いなえ	
所在地	彦根市馬場1丁目5-5		彦根市平田町670番地		彦根市下岡部町632番地	
営業日及び営業時間	月曜日～金曜日 8時30分～17時15分 24時間電話対応実施					
人員体制	看護師 （管理者兼務）1名 主任介護支援専門員1名 社会福祉士 1名 介護支援専門員1名		主任介護支援専門員 （管理者兼務）1名 看護師 1名 社会福祉士 2名 介護支援専門員1名		主任介護支援専門員 （管理者兼務）1名 看護師 1名 社会福祉士 2名 介護支援専門員 1名	
総合相談件数	2,734件		3,011件		3,020件	
	直営分	委託分	直営分	委託分	直営分	委託分
介護予防給付件数	646件	245件	658件	386件	915件	273件
介護予防ケアマネジメントA給付件数	392件	91件	545件	183件	309件	55件
給付件数合計	1,038件	336件	1,203件	569件	1,224件	328件



訪問介護（ホームヘルプサービス）、通所介護（デイサービス）各種事業を実施した。また、障害者の日常生活を支援していくための障害福祉サービス事業を実施した。

感染症に対しての研修、マニュアル作成を行い、一人一人が感染症を正しく理解認識して、日々の健康管理と感染拡大予防対策に努めた。利用者の多くは、高齢や障害に加えて持病などがあるため、それだけに重症化リスクの高い人への感染防止対策の徹底を図り、十分考慮しサービス提供を行った。

虐待防止および身体拘束について発生またはその再発を防止するために、委員会の開催、指針を整備し、研修を実施した。

感染症や非常災害の発生時において利用者に対するサービス提供を継続的に実施するための計画および非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画を策定した。

#### (1) 居宅介護支援（ケアマネジメント）事業

要介護者が、その居宅において有する能力に応じ、可能な限り自立した生活を営むことができるように支援することを目的とし、ケアプランの作成や支援を行った。地域包括支援センターや地域からの依頼による、支援が困難なケースにも関係事業所との連携を図り対応した。

利用者とサービス事業者のパイプ役となり、連絡、調整や介護に関するさまざまな相談に応じた。

組織としてのケアマネジメントの質の向上を図るため、新たに主任介護支援専門員（主任ケアマネジャー）1名を養成した。

項目	内容
営業日	月曜日～金曜日（祝日、12月29日から1月3日を除く）
営業時間	8時30分～17時15分
職員体制 (R7.3.31現在)	〔管理者〕 常勤1名 〔主任介護支援専門員〕 常勤4名（管理者1名含む）※1名増 〔介護支援専門員〕 常勤2名
経営の安定化	・ 担当件数の確認と分析を毎月実施 ・ 特定事業所加算Ⅱ 指定要件確認 ・ 事業所自己評価を3月に実施 ・ 個人の自己評価を9月と3月に実施
アンケート	利用者アンケートを令和6年11月に実施
実習生の受け入れ	介護支援専門員資格取得者への指導（2名）
職員研修	・ 適切なアセスメントのための困難事例の検討会実施。 ・ 職員の資質向上のために個人の研修計画を作成し、外部研修を受講 研修受講後、内部会議にて伝達研修実施。 ・ 他法人指定居宅介護支援事業者との共同研修会を開催。 情報の交換および共有ならびに事例検討を通しての資質向上、研鑽をはかることを目的とする。 ※週1回のケアマネ情報会議および月1回の内部会議を実施し、情報の交換、共有等を行った。
24時間相談対応	営業時間外 61件（前年度 80件）

事業実績

【居宅介護支援利用者数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	189	187	189	190	189	191	193	191	190	188	190	200	2,287
R5	216	221	223	224	229	234	231	221	218	219	220	212	2,668

【介護支援利用者要介護度別利用者数】

実績	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R6	158	128	747	593	401	192	68	2,287
R5	106	96	921	756	470	203	116	2,668

(2) 訪問介護（ホームヘルプサービス）事業

介護保険法、障害者総合支援法により、利用者が居宅において能力に応じ可能な限り自立した日常生活を過ごせるように支援を行った。

項目	内容
営業日	月曜日～日曜日（12月31日から1月3日を除く）
営業時間	7時～21時
令和6年度目標	「気づき⇒発信⇒共有をサービスに活かそう」
職員体制 (R7.3.31現在)	〔管理者〕 1名（介護福祉士） 〔常勤職員〕 3名（介護福祉士有資格者3名/管理者含） 〔非常勤職員〕 2名（介護福祉士1名） 〔登録職員〕 ホームヘルパー12名（介護福祉士有資格者6名） ガイドヘルパー6名
サービス内容	〔身体介護〕 ・入浴介助、清拭、排泄介助、食事介助、体位変換、衣類着脱の介助、通院介助 〔生活援助〕 ・調理、洗濯、掃除、買い物 〔その他〕 ・日常生活における困りごとへの相談、助言 〔ガイドヘルプサービス〕 ・視覚障害者への同行援護サービス 〔移動支援事業〕 ・身体障害者等への移動支援サービス
アンケート	利用者アンケートを令和6年12月に実施し、利用者のニーズを的確に捉えサービスの向上につなげた。
実習生の受け入れ	令和6年度は受入なし。
職員研修	個別に到達目標を設定し、目標達成に必要な技術や知識を習得するよう努めた。 専門性の高い介護サービスを提供できるよう、オンラインも活用しながら研修を受講し、質の向上に努めた。 ※内部会議・内部研修を月1回実施し、情報共有等を行った。
介護保険外自費サービスの実施	平成27年10月から実施 利用者：35名116,630円/キャンセル料含（R5/28名144,650円）

○事業実績

【訪問介護サービス利用回数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	693	737	611	692	738	750	758	752	758	728	710	799	8,726
R5	802	865	827	807	851	863	851	827	716	642	735	753	9,539

【訪問介護利用者要介護度別利用者数】

実績	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
R6	124	150	220	116	95	45	42	792
R5	89	131	226	143	140	40	53	822

【障害福祉サービス利用回数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	65	68	60	85	60	59	78	73	72	86	99	95	900
R5	34	53	48	45	40	51	55	44	49	50	48	41	558

【障害福祉サービス利用者数】

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	11	11	11	13	12	11	14	13	12	14	13	14	149
R5	10	12	11	10	10	9	12	12	10	11	11	10	128

(3) 通所介護（デイサービス）事業

要支援および要介護認定を受けておられる方に、機能維持や家族の介護負担軽減を図り、在宅生活が継続できるようサービスを提供した。市民から選んでいただけるデイサービスになるよう、調理や買い物、社会参加活動・地域貢献活動を積極的に実施した。

項目	内容
サービス目標	「利用者の持てる力を取り上げない」
実施日時	毎週：月曜日～土曜日 9時30分～16時40分まで 年間休業日：日曜日、12月31日～1月3日
実施場所	彦根市北デイサービスセンター（彦根市馬場一丁目5-5）
年間延利用者数	7,114人
職員体制 (R7.3現在)	〔管理者・生活相談員・介護職員兼務〕 1名 〔生活相談員・介護職員兼務〕 2名 〔看護師〕 4名（うちパート 3名） 〔介護職員〕 8名（うちパート 5名） 〔介護補助職員〕 3名（うちパート 1名 派遣 2名） 〔事務職員〕（兼務） 2名
健康チェック	看護師が、利用者の血圧・体温・脈拍の計測をはじめ身体の一般状態を観察し、健康管理を行った。入浴の計画がある方については、医師の許可基準により入浴の可否判断を行った。 医療的処置を必要とする利用者には、主治医の指示のもと実施した。 胃ろうの方の水分の注入、インシュリン接種の補助、排泄の管理等
入浴サービス	利用者の身体状態に合った方法で入浴サービスを提供した。 一般浴、リフト浴、特殊浴

機能訓練	<p>○歩行訓練、階段昇降、金亀体操、テレビ体操、いずみ体操、平行棒、上肢・下肢・体幹体操、脳トレ等</p> <p>○趣味活動（手作業、手芸、生け花、フラワーアレンジメント、園芸、畑作り、カロム、パズル、歌、各種プリント類、塗り絵等）</p> <p>○生活機能訓練（調理、買い物、環境整備等）</p> <p>○認知症進行予防個別プログラム（手作業、手作り品作り、回想法等）</p> <p>○社会参加活動・地域貢献活動（新聞エコバッグ、ふすま紙で封筒・ポチ袋作り、地域清掃、手作り品作り等）</p>
食 事	<p>主に給食業者より提供。職員の検食により、食事内容の検討を行った。美味しく食べやすい、栄養バランスの取れた食事の提供を受けるため、毎月1回、業者に利用者の感想等の提供を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通常メニュー：アレルギーや健康状態、嗜好を考慮した。食事形態は刻み食、一口大食、トロミ食等に対応した。</li> <li>・行事食：お花見弁当、土用弁当、おせち料理等</li> <li>・喫茶週間：ケーキを提供。コーヒー、紅茶等好みの飲み物を利用者に選択していただいた。（月1回、1週間実施）</li> <li>・お楽しみ昼食：おでんや夏祭りの屋台メニューなど、利用者の好みに合わせて企画した。</li> <li>・利用者対象カフェ：利用者の好みに合わせたメニューを展開し、自ら選択できるようにした。一部メニューの下ごしらえにも利用者が携わるようにした。（月数日実施）</li> <li>・簡単調理：デイで収穫した野菜等も活用し、利用者に調理していただいた。野菜を多く使用し、食物繊維が多く取れるメニューにするなど、食生活の一助となるよう実施。利用者の多くが試食に参加された。</li> <li>・本格調理：メイン料理となるようなメニューを作り、自宅に持ち帰っていただいた。自宅での食生活の豊かさ、栄養バランスの向上に繋がるよう実施した。</li> <li>・保存食作り：梅蜜、らっきょう漬けなどを作成。手先を動かしながら、回想や交流の機会となった。</li> </ul>
活 動	<p>〔毎日の活動〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回想法：保存食作り等</li> <li>・健康づくり：健康講座、健康相談</li> <li>・生活リハビリ：調理、保存食作り、買い物等</li> <li>・脳リハ：クイズ、言葉さがし等</li> <li>・軽作業：段ボール縛り、洗濯物干し、プリント類の整理、館内環境整備、消毒、清掃等</li> <li>・創作活動：ドライフラワー作り、生け花、フラワーアレンジメント、手芸、編み物、折り紙、リース作り等</li> <li>・身体を動かす：ボウリング、グラウンドゴルフ、ストラックアウト、カロム、園芸、畑作り等</li> </ul> <p>○社会参加・地域貢献活動「北デイのしが生きがいプロジェクト」【拡充】 市内各所でゴミ拾い等の清掃活動、新聞エコバッグ、ふすま紙で封筒・ポチ袋、寄付用雑巾、広告紙箱などの手作り品作りとその提供等</p>
広 報	<p>SNS でデイの活動や行事等を中心に情報発信を行った。 ケアマネジャーやメディア向けにも月1~2回程度紙ベースで情報提供し、新聞・テレビなどでも取り上げられた。</p>
ボランティアの受入れ	<p>地域の方や滋賀大学生などをボランティアとして受け入れた。 （ボランティアは赤ちゃんから成人までと、多世代になっている。） 折り紙、新聞エコバッグ作り、音楽演奏、和風民謡、米粉パン作り教室、ハンドマッサージ、交流、傾聴など多彩な内容で活動された。</p>

滋賀大学との協働	大学の授業プログラム「レクゲーム大会」「人形劇から学ぶ企画構成力・表現力」で大学生と交流、協働した。授業以外でも大学生が施設見学に来られている。
北デイ喫茶	地域の方を招き、利用者と共にワンコイン喫茶「きたでえー」を実施した。多世代の方が来所し、利用者との交流や、コーヒー・紅茶などを楽しまれた。
夏祭り	屋台メニューの昼食やかき氷、カラオケ大会、職員による出し物などを用意した。
内覧会	地域の方やケアマネジャー、利用者家族などを対象に、活動見学、新聞エコバッグ作り、折り紙教室、カフェ、バザーなどを催した。
バザー	内覧会や北老人福祉センター主催の活動紹介展に合わせ、バザーを開催。地域の方が来所し、利用者で交流したり作品を購入されたりした。
実習生の受け入れ	大学生の実習生を受け入れた。
アンケート	利用者アンケート(年1回)を行い、利用者のニーズを的確に捉えサービスの向上につなげた。結果はセンター内に掲示し、利用者や各担当ケアマネジャーに配布した。
研 修	外部研修：BCP、サービスの質向上、業務改善、身体拘束ゼロ（廃止）セミナー、高齢者権利擁護（身体拘束廃止）、認知症介護基礎研修等 内部研修：外部研修で得た知識を職員間で共有するために実施 入浴介助研修、感染症対策研修・訓練、業務継続計画研修・訓練、高齢者虐待防止研修等 ケース検討などは随時内部研修を実施 防災訓練：北老人福祉センターと合同で実施 消防訓練（年間2回） 水害避難訓練（年間1回） そ の 他：各事業場の衛生推進者による委員会 法人研修：職員スキルアップ研修、ハラスメント研修、交通安全研修、健康づくり研修、人権研修等

《事業実績》

○北デイサービスセンター（延べ利用者数）

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R6	610	600	498	582	597	596	632	627	626	559	565	622	7,114
R5	542	602	596	622	621	611	585	596	581	559	607	594	7,116

介護度別（延べ利用者数）

実績	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中	合計
R6	261	836	2,674	1,957	791	382	213	0	7,114
R5	291	776	2,460	2,229	851	233	256	20	7,116

園芸



畑作り



調理



新聞エコバッグ納品



地域清掃



滋賀大学との関わり



## ○総務課事業

〈会計の区分〉拠点区分：法人運営事業／サービス区分：社協運営事業

### 1) 法人運営体制の充実

(1) 理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会、第三者委員会議の開催

#### ① 理事会の開催（会議5回）

一部の会議で決議の省略（役員を招集しない）を取り入れながら柔軟に開催した。

回	開催日	付議事項
第1回	4月23日 決議省略	《議案》 ・役員（理事）選任候補者の選出について ・評議員選任候補者の選出について ・第1回評議員選任・解任委員会の招集について ・第1回評議員会の招集について
第2回	5月24日	[報告] ・寄付の受け入れについて ・本会第三者委員について 《議案》 ・令和5年度 事業報告の承認を求めることについて ・令和5年度 一般会計収支決算の承認を求めることについて ・定時議員会（第2回評議員会）の招集について
第3回	7月12日	《議案》 ・評議員選任候補者の選出について ・第2回評議員選任・解任委員会の招集について
第4回	11月21日	[報告] ・会長及び常務理事の業務執行状況の報告について ・介護予防支援事業者に対する運営指導の結果について ・寄付の受け入れについて ・専決処分について（令和6年度一般会計補正予算（第1号）） ・専決処分について（令和6年度一般会計補正予算（第2号）） 《議案》 ・第3回評議員会の招集について
第5回	令和7年 3月12日	[報告] ・会長及び常務理事の業務執行状況の報告について ・専決処分について（令和6年度一般会計補正予算（第3号）） ・寄付の受け入れについて 《議案》 ・社会福祉法人彦根市社会福祉協議会経理規程の一部改正について（鏝田基金設立の件）

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度 一般会計補正予算(第4号)について</li> <li>・ 社会福祉法人彦根市社会福祉協議会経理規程の一部改正について(地域包括支援センターひらた受託終了の件)</li> <li>・ 令和7年度 事業計画について</li> <li>・ 令和7年度 一般会計収支予算について</li> <li>・ 役員等賠償責任保険契約の締結および本会の保険料負担について</li> <li>・ 第4回評議員会の招集について</li> </ul>
--	--	--

② 評議員会の開催(会議4回)

一部の会議で決議の省略(評議員を招集しない)を取り入れながら柔軟に開催した。

回	開催日	付議事項
第1回	5月15日 決議省略	《議案》 ・ 役員(理事)の選任について
第2回	6月14日	《議案》 ・ 令和5年度 事業報告の承認を求めることについて ・ 令和5年度 一般会計収支決算の承認を求めることについて
第3回	12月9日	[報告] ・ 専決処分について(令和6年度 一般会計補正予算(第1号)) ・ 専決処分について(令和6年度 一般会計補正予算(第2号))
第4回	令和7年 3月21日	[報告] ・ 専決処分について(令和6年度 一般会計補正予算(第3号)) 《議案》 ・ 令和6年度 一般会計補正予算(第4号)について ・ 令和7年度 事業計画について ・ 令和7年度 一般会計収支予算について

③ 監査の実施

開催日	監査事項
5月17日	・ 令和5年度事業実施状況および一般会計決算ならびに財産の状況について

④ 評議員選任・解任委員会の開催(会議2回)

回	開催日	付議事項
第1回	4月26日 決議省略	・ 評議員の選任について
第2回	7月29日 決議省略	・ 評議員の選任について

⑤ 第三者委員会議

開催日	内容
12月6日	より良い福祉サービスの提供をめざす苦情解決体制の強化として、福祉サービス利用者の苦情、意見、要望に対して社会性や客観性を確保し、適切な対応を推進するため、第三者委員会議を開催し苦情解決に社会性や客観性の確保を図った。

## 2) 事務局体制の充実

### (1) 顧問税理士・社労士・弁護士と連携した経営の推進

- ① 顧問税理士の毎月訪問による指導および随時相談により、会計業務の適正な執行を行った。
- ② 顧問社労士への一部業務委託や随時の相談により、労務問題の整理や解決等を進めた。
- ③ 顧問弁護士への随時相談により、法律問題の整理と解決を進めた。

(2) 組織人・職位に応じた人材の育成

職員のキャリアデザイン形成を進めるとともに経営管理・管理的職員を対象に、外部研修を有効活用しながら計画的に受講した。

① 外部研修への参加

各業務の推進に必要な知識やスキル、職階に応じた能力の習得等を目的に、県社協等が主催する各種研修へ参加した。

研修内容	受講者
滋賀県市町社会福祉協議会会長会 会長・事務局長合同会議	7人：会長、常務理事兼事務局長、地域支援課長、相談支援課長、総務課長、総務課係長、総務課主任
滋賀県社協 中間マネジャー会議	1人：地域支援課長
滋賀県社協 キャリアデザイン研修(チームリーダー)	2人：相談支援課主任
しがぎん経済文化センター 企業の「かなめ」となる管理職養成セミナー	1人：地域支援課課長補佐
滋賀県社協 マネジメント研修会	1人：地域支援課主査
滋賀県社協 滋賀の福祉人研修【新任期】	2人：地域支援課職員
滋賀県社協 滋賀の福祉人研修【新任期】講師	1人：総務課主任
滋賀県社協 滋賀の福祉人研修/介護人材育成研修【管理職】	1人：在宅介護課通所介護係課長補佐
全社協 市区町村災害V C運営者研修会講師養成研修	1人：地域支援課長
滋賀県社協 災害V C中核運営支援者養成研修	2人：地域支援課長、職員
滋賀県 重層的支援体制整備事業担当者研修会	1人：地域支援課長
滋賀県 ひきこもり支援施策推進会議	1人：地域支援課長
滋賀県社協 地域権利擁護事業あり方検討会	1人：相談支援課長
栗東社協 コミュニティソーシャルワーク業務にかかる視察研修	7人：地域支援課長、職員
滋賀県社協 コミュニティワーク基礎研修	1人：地域支援課職員
滋賀県 生活支援コーディネーター基礎研修	1人：地域支援課職員
滋賀県精神保健福祉センター 中高年層ひきこもり支援従事者研修	3人：地域支援課職員
滋賀県社協 ひきこもり支援のための研修会	2人：地域支援課職員
滋賀県社協 ひきこもり一斉電話相談にかかる研修会	3人：地域支援課職員
滋賀県 「しがの農×福ネットワーク」先進事例視察	2人：地域支援課職員
滋賀 KANAME プロジェクト研修会	1人：地域支援課職員
石川県内灘町社協 視察研修	1人：地域支援課職員
滋賀県社協 地域権利擁護事業新任職員研修会	1人：相談支援課職員
滋賀県社協 地域福祉権利擁護事業専門員会議	2人：相談支援課職員
滋賀県社協 生活福祉資金実務研修会	2人：相談支援課職員
滋賀県 障害者虐待防止・権利擁護研修	2人：相談支援課(権サポ)職員
障害者虐待防止に関する研修会	1人：相談支援課(権サポ)職員

滋賀県知的障がい者教育福祉振興大会	1人：相談支援課（権サポ）職員
司法書士の日市民公開シンポジウム	2人：相談支援課（権サポ）職員
湖東地域福祉人材定着促進研修・虐待防止研修会	1人：相談支援課（権サポ）職員
権利擁護中核機関ネットワーク会議	1人：相談支援課（権サポ）職員
滋賀県権利擁護セミナー開催にかかる関係機関会議	1人：相談支援課（権サポ）職員
家事関係機関との連絡協議会	1人：相談支援課（権サポ）職員

○視察受入れ

令和6年度は受入れなし

○実践報告

実施日	訪問・報告先	内容	人数
5月30日	多賀町社協 福祉研修会	彦根市の取組における見守り合い・助け合い・支え合い	55人
7月10日	滋賀県社協 市町社協相談業務研修	福祉相談員の日常業務の紹介、基本的なスキルや知識について	約25人
10月3日	滋賀県生活支援コーディネーター基礎研修	包括支援体制づくりにおける生活支援コーディネーター～彦根市社協の実践から～	約25人
11月13日	滋賀県市町社会福祉協議会会長会 会長・事務局長合同会議	彦根市におけるひきこもり支援および参加支援の取組について	51人
12月9日	滋賀県社協 滋賀の福祉人研修	先輩職員からのアドバイス	35人
1月29日	さまざまな人が支え合うお互い様の地域づくり推進事業フォーラム	彦根市の「地域づくり」について	約40人

④ 実習生の受入れ

地域支援課

- ・社会福祉士実習生 2人（延べ47日）
- ・看護師および保健師 地域統合実習 5人（延べ22日）

在宅介護課（居宅・訪問）

- ・ケアマネジャー実務者研修 2人（計4日）

⑤ 職員の育成・資格取得の推奨

相談者や利用者に対するより良い援助が行えるよう、専門職としての知識の習得と資質向上を目的とした資格取得を推奨している。

有資格職員数（令和7年3月末日現在）

種類	人数
主任介護支援専門員	10
介護支援専門員	27
介護福祉士	36
社会福祉士	22
精神保健福祉士	5
衛生管理者	4
防災士	3

看護師	6
合 計	112

(注) 1人で複数資格を有する場合は、資格ごとに1人として計算

### (3) 内部研修の実施と充実

#### ① 内部研修の実施

所属の垣根を超えた職員同士の連携体制の強化や、組織人として大切にすべき知識やスキルを身に付けるための「職員スキルアップ研修」を実施した。

また、全職員を対象とする研修として、職員本人をはじめ、住民、利用者、職員等一人ひとりを大切に、適切な対応ができるよう人権意識を高めることを目的とする「人権研修会」を実施したほか、業務における安全運転意識の向上と徹底を図ることを目的とする「交通安全研修会」や職員の健康の保持・増進を目的とした「健康づくり研修会」を実施した。

○職員スキルアップ研修（全2講座）	受講者 延べ66人／希望職員
・彦根市社協基本理念についてみんなで考えよう	受講者 36人
・不審者等対応防犯訓練	受講者 30人
○人権研修会（1回実施）	受講者 41人／全職員
○交通安全研修会（1回実施）	受講者 39人／全職員
○健康づくり研修会／メンタルヘルス関係（1回実施）	受講者 36人／全職員

### (4) 人事考課制度の検討と試行

顧問社労士の助言・指導を受けながら、令和6年10月1日より人事考課制度の「試行」に取り組んだ。

- ① 顧問社労士の助言・指導を得ながら、内部会議を随時開催し、評価項目や評価方法を中心に人事考課制度の検討を行った。

検討会議の開催 全4回

- ② 評価方法や視点等を学ぶため、顧問社労士を講師に招き、評価者および次期評価者を対象とした「考課者訓練」を開催した。

評価者および次期評価者 10名出席

- ③ 被評価者（正規職員および常勤／非正規職員）を対象に、2回に分けて人事考課制度／試行概要の説明会を行い、法人および全所属ならびに部門別ミッションの達成に向けた人材育成、指定様式等の活用方法および手順等についての説明を行った。

### (5) 職員間連絡・コミュニケーションツールの導入と内部連携強化

- ① グループウェア「デスクネットNEO」を活用し、職員間の連絡・コミュニケーションおよび周知の迅速化、ペーパーレス化を進めた。

- ② 内部連絡会議および外部との定例会議の開催による連携体制の強化

〈連絡調整会議（所属長会議）／月1回〉

毎月定例の所属長等による会議を開催し、現状課題および今後に向けた協議・検討を行い、連携体制の強化を図った。

〈平田事業場衛生委員会／年12回・法人衛生会議／年4回〉

毎月、各部署における取組目標を決め衛生活動を行うとともに職場内の安全衛生パトロールを実施し、労働災害の防止、健康の保持・増進等職場における労働環境の改善を図り、職員の安心・安全な職場環境と衛生管理の確保に努めた。

年間・安全運転スローガンの唱和

衛生推進者の育成

ヒヤリ・ハット事例の収集および周知（通年）・強化期間（6/1～7/7）

腰痛予防の取組（通年）・強化期間（9/1～10/7）

健康診断の実施（付加健診等の事業主負担）

ストレスチェックの実施

夏季特別休暇および年次有給休暇の取得促進による心身のリフレッシュ

「ノー残業デー」の実施

〈地域福祉推進のための各種会議〉

◆地域福祉推進のための財源確保および使い道にかかる検討ミーティング／年6回

地域の“いま”と“これから”において重点的に取り組むべき事業、寄付者から共感が得られる事業を整理し、本会として自主財源確保を図るための手法や体制について検討を行った。

◆コミュニティワーカーなんでもミーティング／月1回

◆コミュニティソーシャルワーカー、アウトリーチ支援員ミーティング／月1回

◆災害ボラセン担当者ミーティング／年6回

◆生活相談支援係定例ミーティング／月1回

地域福祉権利擁護事業および生活福祉資金貸付事業における内部での情報交換と事例検討等を行い、相談援助技術に関する知識の向上および技術の習得に努めた。

〈市関係課との連携および情報共有（定例ミーティング）〉

市からの委託業務をはじめ、地域福祉の推進に向けて連携および情報共有を図り、相互の強みを活かした事業の推進を図っていくことを目的に、市関係課との定例ミーティングを開催した。

◆重層的支援体制整備事業の推進にかかる会議／年7回

出席者：市社会福祉課、高齢福祉推進課、子ども・若者課、地域支援課地域支え合い推進員（アウトリーチ支援員の兼務者を含む）、参加支援コーディネーター、ボランティアコーディネーター

◆子ども・若者支援事業に関する情報交換会／年4回

出席者：市子ども・若者課、少年センター（子ども・若者総合相窓口）、市教育委員会スクールソーシャルワーカー、市教育委員会学校支援・人権・いじめ対策課、地域支援課居場所づくり担当者

（6）大口遺贈にかかる手続きおよび「鏝田基金」の設立

故鏝田久勝様から遺贈いただいた預貯金および土地・建物について、顧問税理士等専門職の助言・支援を受けながら、遺言執行人として金融機関や法務局等に対する必要手続きとともに、個人の死後事務（葬儀・供養・行政手続き等）を行った。

また、故人のご遺志を尊重し、市内における福祉活動の振興や安心して相談できる支援の充実を図るための将来的財源として、故鏝田久勝様の名字を冠した「鏝田基金」を設立

した。

(寄付内容)

預貯金 39,971,875円

不動産 市内土地：104.95㎡(故人持ち分は1/2)

市内建物：78.61㎡( " )

市外 田：3,155㎡

(鰐田基金積立額)

38,955,211円(寄付額より死後事務等の必要経費を差し引いた残額)

#### (8) 災害時に対する備え

大規模災害が発生した際にも、職員が業務へ従事できるよう災害用トイレ等の防災備蓄用品の整備を行った。

### 3) 一般会費・賛助会費による地域福祉推進財源の確保

学区(地区)社協の協力を得て、各地域の住民に対し一般会費の協力依頼を行った。

また、賛助会費については、ボランティアグループ、福祉団体・施設等へダイレクトメールにより協力依頼を行い、その際、賛助会員制度趣意書で会費の用途の見える化と本会が取り組むさまざまな事業を周知するとともに、賛助会費納入における所得税の寄附金控除の適用についても周知した。また、本会広報紙「社協ひこね」に氏名の公表を承諾された賛助会員を掲載して、事業所等の社会貢献度のPRを図った。

依頼件数 200団体・施設(学区(地区)社協除く。)

賛助会員加入件数 73団体・施設等( " ) ※前年度から2団体等増

納入額 298,000円( " ) ※前年度から16,000円増

### 4) 広報事業

#### (1) 広報紙「社協ひこね」の発行

各地域で取り込まれる福祉活動情報を発信することで、住民の関心の輪を広げ、福祉活動への参加のきっかけづくりを目的に、広報紙「社協ひこね」を発行した。

発行部数：55,100部(令和7年2月1日号現在) 全戸配布

令和5年度より8ページ構成で、発行月は6月1日、10月1日、2月1日の年3回発行。

[発行状況](主なものをピックアップ)

発行号	発行日	主な内容
第228号	6月1日	・人と人がつながる助け合い・支え合い ・令和6年度彦根市社協ではこれらの事業に取り組めます！ ・はびとも基金”寄付総額1,000万円到達！！“ ・4月より「心配ごと相談」の電話番号が変わりました！
第229号	10月1日	【赤い羽根共同募金特集号】 ・誰ひとり取り残されないつながりのある地域づくり ・企業の取組・地域貢献の紹介 ・令和6年度能登半島地震 七尾市災害ボランティアセンター運営支援

		・ 窓口時間・ 電話受付時間変更のお知らせ
第230号	令和7年 2月1日	・ 2024ボランティアフェスティバル 社会福祉大会報告 ・ 令和6年度 賛助会費にご協力いただいた皆様 ・ 笑顔のたねをまきましよう！あなたも民生委員・児童委員になって活躍してみませんか？ ・ ひこねふくし活動応援募金箱 ご協力いただいた店舗・団体様

○広報紙「社協ひこね」点訳・音訳版の発行

点訳版：福祉センター別館、盲学校、視覚障害者センター、障害福祉課に設置

音訳版：貸出し用CDを彦根市立図書館および福祉センター別館に設置、またホームページ上に音声データを公開

○広報紙仕分け作業の障害者作業所への委託・社会的就労の場としての活用

業者に委託していた仕分け作業を、障害者作業所へ委託および社会的就労の場として活用し、孤立しがちな当事者たちの参加できる居場所づくりを行った。

## (2) 電子メディアを含む情報発信の強化

ホームページで本会事業をはじめ、さまざまな福祉情報を提供したほか、X(旧Twitter)、フェイスブック、インスタグラムを活用し、リアルタイムな地域福祉情報の発信に努めた。

○社協ホームページへのアクセス件数

23,905回(月平均/約1,992回) (前年度:24,540回)

○ホームページの更新・修正等回数

154回 (前年度:167回)

主な更新内容等：新着情報、北老福関係、広報紙「社協ひこね」、市社協概要(予算・決算等)、各種助成金情報、職員採用情報、貸衣装、はぴとも基金 他

○SNSフォロワー数(令和7年3月末現在)

X(旧Twitter)(社協):1,195(前年度末:1,141)

“(共募):320(前年度末:325)

“(貸衣装):34(前年度末:28)

フェイスブック:644(前年度末:636)

インスタグラム(社協):1,436(前年度末:1,250)

“(貸衣装):170(前年度末:122)

○SNS総投稿数

X(旧Twitter):122回(社協・共募・貸衣装) (前年度:171回)

フェイスブック:108回 (前年度:175回)

インスタグラム:108回(貸衣装含む) (前年度:175回)

## (3) 広報検討委員会の開催

計画的な情報発信やSNSを活用したリアルタイムな情報提供など、より効果的に地域の福祉活動を届けるため、総務課・地域支援課・相談支援課の広報担当による広報検討委員会を開催した。

広報検討委員会開催数:3回

○広報紙「社協ひこね」の裏表紙(帯部分)のリニューアル【新規】

より目に留まり手に取ってもらえる広報紙にするため、リニューアルを行った。

令和6年10月1日発行 第229号からリニューアル



○職員共通名刺の一部仕様変更【新規】

所属によって名刺を渡す先が異なることから、デザインは変更せずに名前やイラストなどの大きさや配置を自由に変更できるように一部仕様変更を行った。

〈会計の区分〉拠点区分：基金運営事業／サービス区分：子どもの幸せ応援基金運営事業

5) 小児難病見舞金

市内在住の小児慢性特定疾病に罹患した児童と保護者への励ましと負担の軽減となるよう見舞金を支給した。

見舞金支給件数： 5件 300,000円 (前年12件 560,000円)

〈会計の区分〉拠点区分：衣装貸付事業／サービス区分：衣装貸付事業

6) 衣装貸付事業（収益事業）

地域福祉の推進を図るため、収益事業として衣装の貸付けを行った。

本会広報紙をはじめ、ホームページ、SNS（インスタグラム、X、フェイスブック）、を利用して広域のお客様へも情報発信し、利用の促進を図った。また昨年に引き続き、SNSに掲載する写真の提供を利用者に呼び掛け、実際の着用風景を発信していくことで顧客増となるよう努めた。

【衣装貸出状況】

種 類	貸出件数	種 類	貸出件数
黒留袖	50	色留袖	11
訪問着	6	振袖・中振袖・女袴	52
喪 服	2	草履・バッグ・雪駄	90
略礼服	54	ブラックフォーマル	29
モーニング	65	ゲストドレス・ジャケット・スカート	76
紋 服	31	洋装その他	34
スーツ(男女)	11	靴	33
男児スーツ	29	祝 着	21
女児ドレス・スーツ	15	七五三衣装	47
子ども靴	28	その他、小物	123
合 計		807件	

【生活困窮者等への貸出件数】 0件

【新規購入衣装】

種類	購入点数	金額
黒留袖	1	計47点 459,847円
女性洋装（ボレロ）	2	
振袖一式	1	
男性袴	4	
略礼服（シングル）	1	
男性靴	1	

和装小物	24	
洋装小物	8	
七五三小物	4	
子どもシューズ（女兒）	1	